このプロジェクターを使用する前に、本マニュアルをお読みください

RLM W6

USER'S GUIDE

取扱説明書

BARCO

Visibly your

目次

警告、通知および安全に関する指示 4

通知 4
FCC基準パート15に関する説明 4
警告および安全に関する指示 5
プロジェクターを取り付ける前に読む必要のある通知 7

プロジェクターの部品と機能 10

正面図 10
背面図 10
底面図 12
有効なリモコン信号受信の範囲 13
リモコンの電池を取り付ける 13

プロジェクターの素早い取り付け 14

投影距離 17
設置方法 17
水平および垂直レンズシフト 19

プロジェクターを取り付ける 20

プロジェクターを他のデバイスに接続する 20
12V Trigger接続 20
RGB接続 21
RGBs接続 22
IR入力接続 22
S-Video/ビデオ接続 23
コンポーネント接続 23
プロジェクター電源オン 24
OSD言語を変更する 24
画面方向を調整する 25
プロジェクターレンズを調整する 26

リモコンを使用する 27

OSDメニューツリー 29

OSDメニューの説明 29

OSD説明 31
入力 31
画像 33
レイアウト 40
ランプ 42
調整 44
コントロール 46
サービス 49

ランプとフィルターの保守 50

ランプ交換 50
フィルターを清掃する 51

LEDインジケータの簡単なトラブルシューティングと定義 52

LEDステータス 53

プロジェクターの仕様 54

通知

お使いのプロジェクタのモデル番号とシリアル番号を書き留め、その情報を保管して保守の必要が生じた際は参照してください。機器を紛失したり盗まれたりした場合、警察調書用にこの情報を使用することもあります。

モデル番号:

シリアル番号:

次のリストでプロジェクタに同梱されている付属品を確認してください。付属品が足りないときは、直ちに販売店にご連絡ください。

1: 米国仕様の電源コード*1
2: 欧州連合仕様の電源コード*1
3: 中国仕様の電源コード*1
4: リモコン *1
5: 単三バッテリ *2
6: 取扱説明書 *1
7: セットアップマニュアル *1
8: 安全マニュアル *1
9: 保証書 *1
10: WEEE通知カード *1
11: CD ROM *1

FCC基準パート15に関する説明:

本装置は、FCC基準パート15に準ずるクラスAのデジタル電子機器の制限事項に準拠しています。これらの制限事項は、住宅地域で使用した場合に生じる可能性のある電磁障害を規制するために制定されたものです。

本装置は無線周波数エネルギーを生成して使用し、また放射します。指示に従って正しく設置しなかった場合は、ラジオやテレビの受信に障害を及ぼす可能性があります。しかしながら、特定の設置状況においては電波障害を起こさないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信に障害を与えていないかを判断するには、本装置の電源を切り、入れ直してみます。受信障害が発生している場合には、以下の方法で受信障害を改善することをお薦めします。

- 受信アンテナの方向または設置位置を変える。
- 本装置と受信機の距離を離す。
- 本装置を受信機の電源とは別の電源に接続する。
- 販売店やラジオ/ビデオの専門技術者に問い合わせる。

このクラスAデジタル機器はカナダICES-003規格の全ての要件を満たしています。

Cet appareil numérique de la classe A est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

本製品のランプには水銀が含まれています。本製品には、不適切に処理した場合有害となるその他の家電系廃棄物が含まれている可能性があります。廃棄またはリサイクルに関する地方自治体や国の規制を参照してください。

Hg 詳細については、米国電子工業会(WWW.EIAE.ORG)にお問い合せください。
適切なランプ処理の詳細については、WWW.LAMPRECYCLE.ORGを参照してください。

警告および安全に関する指示

レーザー光線に対する特別注意！

DLPプロジェクタと高出力レーザー装置が同じ部屋で使用されているとき、特別な注意を払う必要があります。

レーザー光線やプロジェクタのレンズを直接打ち付けると、Digital Mirror Devices (DMD™)がひどく損傷する可能性があります。

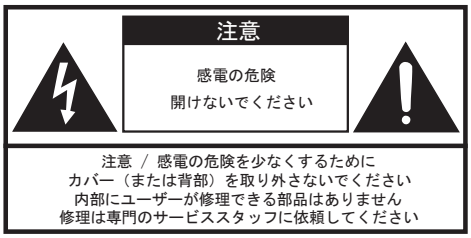
日光の警告

直射日光にさらされている場所でのRLM W6の使用そ避けてください。

プロジェクタのレンズに直射日光が当たると、Digital Mirror Devices (DMD™)がひどく損傷する可能性があります。

プロジェクターの光源を絶対にのぞき込まないでください。

本装置には高輝度の光源が含まれており、プロジェクターの放出する光の一部は紫外線です。プロジェクターの光源は絶対にのぞき込まないでください。また、お子様がプロジェクターの光源を見ないように特別な注意を払ってください。見つめると目を損傷する可能性があります。



三角形内部の矢印の付いた稲妻は、本製品の内部に感電の危険があることを示しています。

三角形内部の感嘆符は、本機器の技術マニュアルに操作または修理の重要な指示が含まれていることを示しています。

電源コードを外してプロジェクターの電源を切らないでください。

通常の操作をしている場合、内部冷却ファンはプロジェクターの電源をオフにした後、遮断プロセスが完了するまで約90秒作動を続けるため、プロジェクターの電源をオフにするにはソフト電源ボタンを必ず使用してください。また同様に、プロジェクターの電源をオフにするのにAC電源を遮断しないでください。ランプが故障したり損傷する原因となります。

感電

プロジェクターを保護するために、雷が鳴っている間はプロジェクターの電源をオンにすることは避け、壁コンセントからプラグを抜いてください。こうすることで、雷に起因する突然の電源サージでプロジェクターが損傷するのを避けることができます。

1 警告、通知および安全に関する指示

壁コンセント/延長コードに過負荷をかけないでください

使用しているコンセントの電流負荷に注意を払い、火災や感電を防ぐために壁コンセントや延長コードのコンセントを使用するようにしてください。

清掃

プロジェクターを清掃する場合は、感電の原因となるため必ず壁コンセントからプラグを抜いてください。

液体またはエアゾールクリーナーを使用しないでください。清掃には、乾いた布または余分な水分のない湿った布を使用してください。摩擦によるプロジェクターケースの損傷の原因となるため、プロジェクターのモニターの清掃用にデザインされた清掃用布を必ず使用してください。

湿気、煙、蒸気、埃、高温、直射日光への暴露

湿気、煙、蒸気、埃、高温、直射日光にさらされる環境でプロジェクターを操作しないでください。例: 浴室、台所、洗濯機の傍、湿った地下室、ヒーターまたは類似環境。上記の環境下にプロジェクターを保管したり操作したりすると、退色、かびの発生、油汚れ、プロジェクターの損傷の原因となります。

換気

プロジェクタケースは、コンポーネントが過熱したり損傷したりしないように、スロットと開口部でプロジェクター内部の熱を取り除くように設計されています。プロジェクターは望ましい換気が施された環境で操作し、ソファやじゅうたんの上または換気を遮るその他の密閉環境で操作しないでください。

異物の侵入

プロジェクターに異物が入らないように注意してください。異物が入ると、危険な高圧にさらされて部品がショートする可能性があります。これにより、火災または感電が引き起こされることもあります。異物の例には、 ゴキブリ、ねじ、液体などが含まれます。

また、液体がプロジェクター内部にこぼれないようにしてください。

プロジェクターを持ち運ぶ

カートに乗せてプロジェクターを移動するとき、カートの取り扱いには十分ご注意ください。突然の停止や過度の衝撃またはでこぼこの地面によりプロジェクターが倒れる可能性があります。

プロジェクターは平らで安定した面に取り付けてください

プロジェクターを不安定なカート、三脚、テーブルなどの上に置くのは避けてください。プロジェクターが落ちて、損傷したり人が負傷したりする原因となります。

修理

プロジェクターに何らかの問題が発生した場合、最寄りの販売店または専門技術者にお問い合せください。高圧やその他の潜在的危険にさらされる危険があるため、プロジェクターを自分で修理しないでください。

次のどれかの状況が発生したら、壁コンセントからプロジェクターのプラグを抜いて専門技術者に処置をお問い合せください。

- 電源コードや電源プラグが損傷した。
- 異物がプロジェクター内部に落ちた、または水またはその他の液体をプロジェクター内部にこぼした。
- プロジェクターを間違って落とした、またはプロジェクターが損傷した。
- 指示に従って通常の操作をしたにもかかわらず、プロジェクターの性能が著しく落ちたり誤動作を起こすようになった。

部品を交換する

プロジェクターの部品が損傷した場合、交換部品にはメーカーの認定した部品以外は使わないように修理スタッフに確認してください。認定されていない部品を使うとプロジェクターが損傷したり、火災や感電などの危険がもたらされる場合もあります。部品の交換後は、プロジェクターが正常に作動することを確認するために修理スタッフに安全点検を行うように依頼してください。

電源コード

電源コードが踏まれるような場所にプロジェクターを設置しないでください。電源コードの、特に、プラグや電源コードとプロジェクターの間の連結点が擦り切れたり損傷する原因となります。

プロジェクターに付属する電源コード、またはプロジェクターに指定されるタイプの電源コードを使ってください（電源コードについては、付属の印刷された説明書を参照してください）。お住まいの地域で使用されている電源がよく分からない場合、間違った電源コードの使用によるプロジェクターの損傷や過負荷による火災を避けるために、最寄りの電力会社にお問い合せください。

居住する国や地域によっては、電圧や壁コンセントのソケットのタイプがプロジェクターと異なることがあります。壁コンセントに電源プラグが合わない場合、最寄りの販売店にご相談ください。電源プラグの余分なピンを取り外してソケットに無理に差し込まないでください。ご自身の安全が損なわれることがあります。

プロジェクターを取り付ける前に読む必要のある通知

ランプに関連する安全の問題

本製品のランプには水銀が含まれています。ランプが壊れた場合、ガラスの破片を注意して処理し、十分に換気してください。体に害のある水銀の蒸気を吸い込まないように、清掃の前には適切な保護マスクを必ず着用してください。ランプ交換の指示ついては、「保守とトラブルシューティング」 → ランプを交換するの章を参照してください。

頻繁に休憩を取って目を休ませる

プロジェクターの画面を長く見続けていると、目が疲れることがあります。目は、適度に休ませるようにしてください。

プロジェクターの取り付け環境

過度に湿気や埃、煙の多い場所にプロジェクターを設置しないでください。そのような環境への取り付けが避けられない場合、*プロジェクターの内部を定期的に清掃してプロジェクターの寿命を延ばすようにしてください*。プロジェクター内部の清掃は最寄りの販売店が派遣する専門のサービス業者に任せ、絶対に自分で清掃しないようにしてください。

1 警告、通知および安全に関する指示

プロジェクターの画面に他の光源が直接投射している場合、プロジェクターの画像の色が淡くなったり画像品質が落ちることになります。さらに、目も疲れやすくなります。

従って、プロジェクターを直射日光やその他の強い光源にさらされない場所に取り付けることをお勧めします。

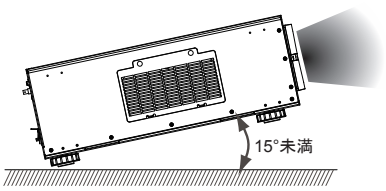
プロジェクターの最適な動作温度範囲は0°C～40°Cの間です

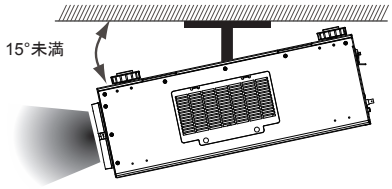
プロジェクターの最適な保管温度範囲は、0°C～40°Cの間です。

プロジェクターを15度以上傾けないでください。

プロジェクターの最大の傾き角度は15度です。

プロジェクターを15度以上傾けると、プロジェクターのランプの寿命が短くなり、他の予期しない損傷が引き起こされることとなります。





高高度でのプロジェクター操作の設定

プロジェクターを高高度で操作するとき、*必ずファンモードを「高」に手動で設定してください*。そうでないと、プロジェクターの光学システムの寿命が短くなります。高高度は1500メートル以上の高さとして定義されます。

第六章の、OSDメニュー → ランプ → 高高度モードを参照してください。

プロジェクターの換気用の吸気口と排気口の周りに物体を置かない

プロジェクターの換気用吸気口と排気口から30cm以内に物を置かないようにし、空気が指定した取り付けスポットの方向に流れていることを確認してください。排気口から出る熱い空気が吸気口に流れ込まないようにしてください。適切な冷気が妨げられ、プロジェクターの内部構造が損傷する原因となります。

換気用の吸気口と排気口が塞がれたために内部冷却ファンが誤動作を起こし高温が発生すると、プロジェクターは自動保護モードを起動し遮断します。この状況は、装置の誤動作ではありません。壁コンセントから電源コードを抜き約15分待ってから、プロジェクターの操作を再開してください（プロジェクターが再び保護モードに入らないように、換気を妨げる原因となる物を取り除くのを忘れないでください）。「LEDステータス」の章を参照してください。

説明: 冷却ファンによるプロジェクター内部の温度調整は自動的に行われます。従って、動作速度を変える冷却ファンの音は、プロジェクターに問題が発生したことを意味しません。

プロジェクターを注意して保護する

高い位置にプロジェクターを設置するとき、落下して負傷しないようにプロジェクターをしっかり固定してください。プロジェクターのレンズを衝突、摩擦またはその他の損傷から保護してください。プロジェクターを保管したり、長期間使用する予定のない場合、レンズカバーを閉じるかプロジェクターをダストカバーで覆ってください。

電子情報製品に含まれる有害/危険物質の名前と内容については、以下の表を参照してください。

有害/危険物質または要素の名前と内容に関するマーキングスタイル

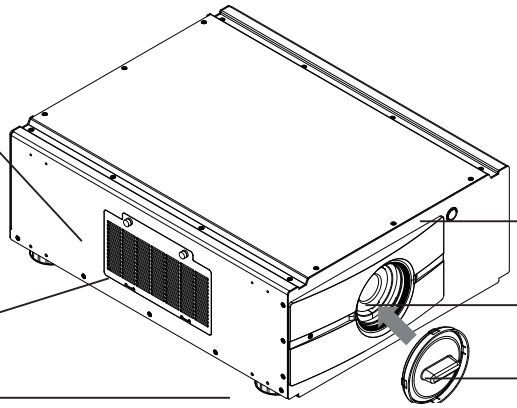
部品名	有害/危険物質と要素					
	鉛 (Pb)	水銀 (Hg)	カドミウム (Cd)	六価クロム (Cr(VI))	多臭素化ビフェニル (PBB)	ポリ臭化ジフェニルエーテル (PBDE)
光学エンジン(AIまたはMg合金)	×	○	○	○	○	○
レンズ	×	○	○	○	○	○
ランプ	×	×	○	○	○	○
バラストタンク	×	○	○	○	○	○
クリップ(快削リン青銅)	×	○	○	○	○	○
ファンアセンブリ	×	○	○	○	○	○
ランプカバーで保護されたスイッチ	○	○	×	○	○	○
温度スイッチ	○	○	×	○	○	○
PCBアセンブリ	×	○	○	○	○	○
ケーブル	×	○	○	○	○	○
電源コード	×	○	○	○	○	○
電源インレット	×	○	○	○	○	○
金属(快削リン青銅、銅釘など)	×	○	○	○	○	○
リモコン	×	○	○	○	○	○

O: この部品のすべての均一物質に含まれるこの有毒または危険物質が、SJ/T11363-2006 の制限要件以下であることを示します。

X: この部品に使用される均一物質の少なくとも1つに含まれるこの有毒または危険物質が、SJ/T11363- 2006 の制限要件以上であることを示します。

(会社は、このボックス内に実際の条件に基づくマーキング「X」の技術説明を含めることがあります)

正面図



調整フット
調整フットでプロジェクターの高さと角度を調整します

換気用吸気口
内部冷却ファンは、換気用吸気口からプロジェクター内部に冷気を引き込みます。

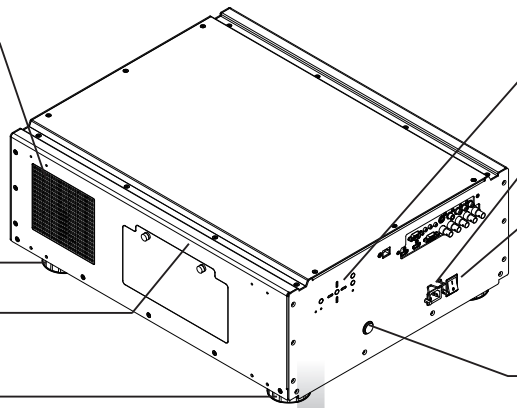
調整フット

赤外線受信機

レンズ

レンズカバー

背面図



換気スロット
プロジェクター内部に生成される熱風は、換気スロットを通して拡散されます。換気スロットの周りに障害物がないことを確認してください。

調整フット

ランプカバー

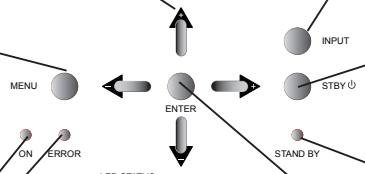
調整フット

プロジェクターボタン

電源インレット

電源スイッチ
I → オン
O → オフ

赤外線センサー



▲▼▶◀ ボタン
これらのボタンを使ってOSDのアイテムをスクロール、設定または調整したり、さまざまな画像を切り替えます。

メニュー
OSD調整画面の表示/非表示を切り替えます

電源
プロジェクターの電源ステータスを表示します

エラー
プロジェクターの誤動作につながる問題（温度、ファン、ランプまたはシステム）の原因を表示します。

入力
異なる入力信号ソースの切り替えに使用します。
詳細については、第六章 → 信号入力選択を参照してください。

STBY
このボタンを使ってプロジェクターを起動または遮断します。

スタンバイ
プロジェクターのスタンバイステータスを示すインジケーター。

入力
このボタンを押してOSDアイテムの選択を確認します。「アイテムの選択」から選択したり、「サブメニュー」構成にアクセスできます。

IR ext.
互換NilesまたはXantech IRリピーターシステムから入力信号を受信します。

12V TRIGGER
(3.5-mm、ミニフォンジャック)
350mAモニターリレー（ショート保護搭載）に対して12 (+/- 1.5) Vの出力を提供します。

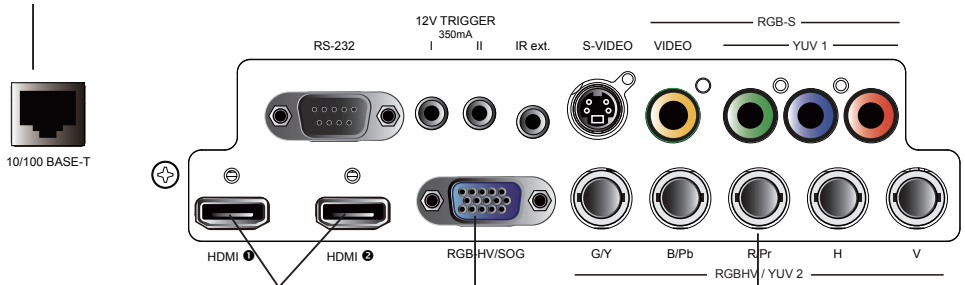
RS-232
9ピンD-subソケット。PCまたは自動ホームシアター/コントロールシステムを接続します。

10/100 BASE-T
ネットワーク経由でPCにプロジェクターを接続し、PCでプロジェクターを直接コントロールできるようにします。

S-VIDEO
DVDプレーヤー、衛星放送受信機またはスーパーVHS (S-VHS) VCRに接続する標準S-Video入力。

ビデオ
VCR、レーザーディスクプレーヤーまたはその他のコンポーネント画像ソースに接続します。また、RGBS入力ソースからコンポジット画像同期化入力にも接続します。

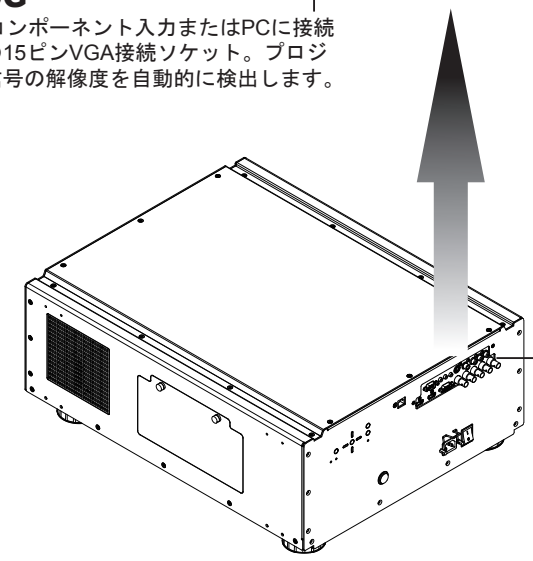
YUV1
標準および高解像度 (480i/480p/576i/576p/720p/1080i/1080p) コンポーネント入力、DVD/HD-DVD/BDプレーヤー、HDセットトップボックスまたはその他のSD/HD入力ソースに接続します。また、RGBS入力ソースからRGB入力にも接続します。



HDMI 1 & 2
HDCP互換デジタル画像入力、HDMIまたはDVIを使ってソースに接続します。

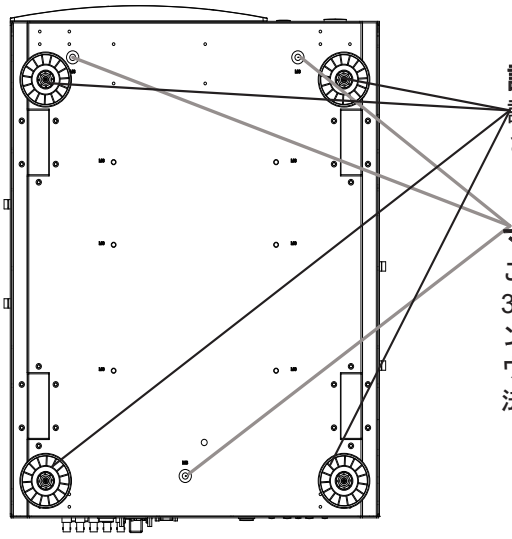
RGBHV/YUV2
コンポーネント(YPbPr)画像ソースとチャンネルソース(Hs、Vs)の場合、5つのBNC入力に接続します。

RGBHV/SOG
RGB、高解像度コンポーネント入力またはPCに接続するための標準の15ピンVGA接続ソケット。プロジェクターは入力信号の解像度を自動的に検出します。



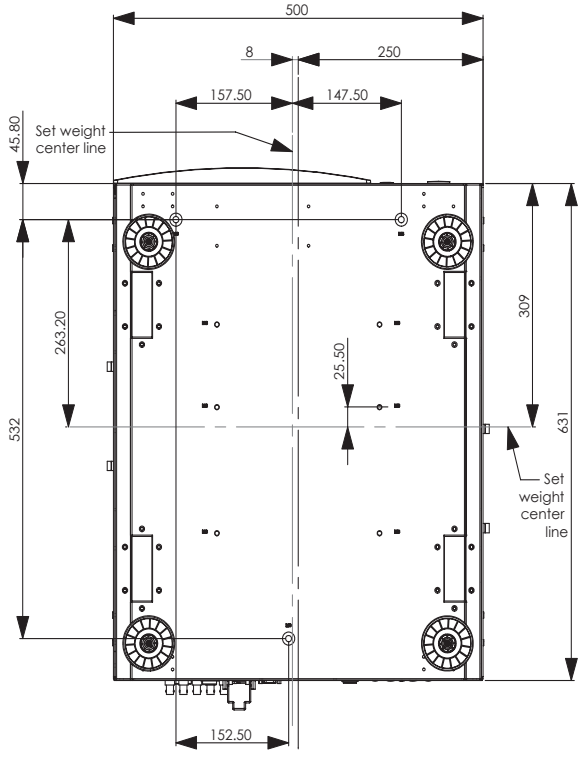
IOコントロール (入力/入力コントロールパネル)

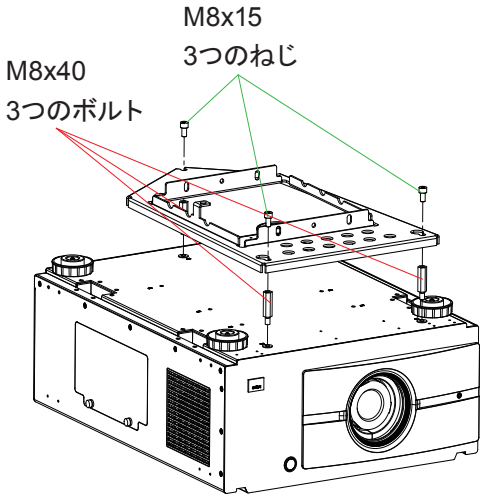
底面図



調整フット
調整フットでプロジェクターの高さと角度を調整します

マウンティングブラケットねじ穴
これらのねじ穴は、3 M8x15ねじと3 M8x40ボルトを使用して指定されたマウンティングブラケットにプロジェクターをマウントするために使用されます。ねじ穴の寸法は以下の図に示しています。

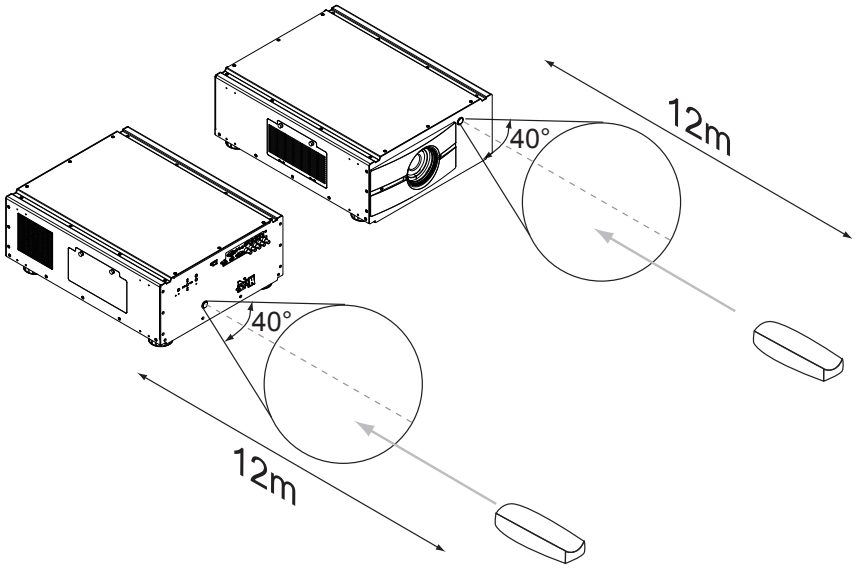




シーリングマウント注文情報:
1. R9849999-シーリングマウント
2. R9841260-短滑車400mm～765mm
3. R9841261-長滑車800mm～1,165mm

有効なリモコン信号受信の範囲

以下の図は、有効なリモコンの信号受信範囲を示しています。



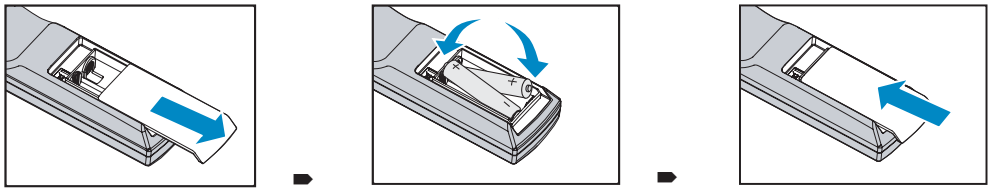
注： リモコンは温度または湿気の高い場所に置かないでください。誤動作を引き起こす原因となります。

リモコンの電池を取り付ける

矢印で示す方向にスライドさせて、カバーを取り外します。

2本の単三電池を挿入します（プラスとマイナス方向に注意してください）。

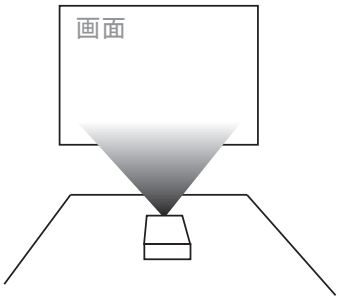
カバーを戻します。



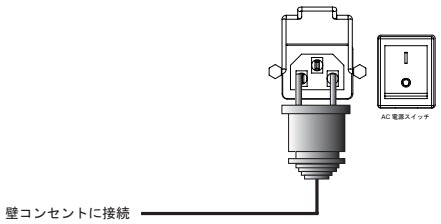
注1: リモコンと電池のプラスとマイナスが合うように電池を挿入してください。
注2: 新しい電池と使用済み電池を混ぜ合わせないでください。新しい電池の寿命が短くなったり、液漏れの原因となります。
注3: 指示された通り、単三電池のみを使用するようにしてください。リモコンに異なる種類の電池を挿入しないでください。
注4: リモコンを長時間使用しない場合、液漏れの原因となるため必ず電池を取り外してください。液漏れによりリモコンが損傷する場合があります。
注5: 電池の液体は皮膚に有害です。素手で液体に触れないでください。新しい電池を取り付けるとき、漏れた液体をよく拭き取ってください。
注6: ほとんどの環境下で、画面の方にリモコンを向けると赤外線信号が画面から反射され、プロジェクターの赤外線センサーにより感知されます。しかし、特定の環境下では、プロジェクターが環境要因によりリモコンからの信号を受信できないことがあります。この場合、リモコンをプロジェクターの方向に合わせ再試行してください。
注7: 有効なリモコン信号受信の範囲が弱くなった場合、またはリモコンが作動しなくなった場合、電池を交換してください。
注8: 赤外線受信器が蛍光灯または強い日光にさらされた場合、リモコンが正常に作動しないことがあります。
注9: 使用済み電池の廃棄については、地方自治体により定められた規制を参照してください。廃棄が不適切だと、環境が損なわれる可能性があります。

プロジェクターの素早い取り付け。

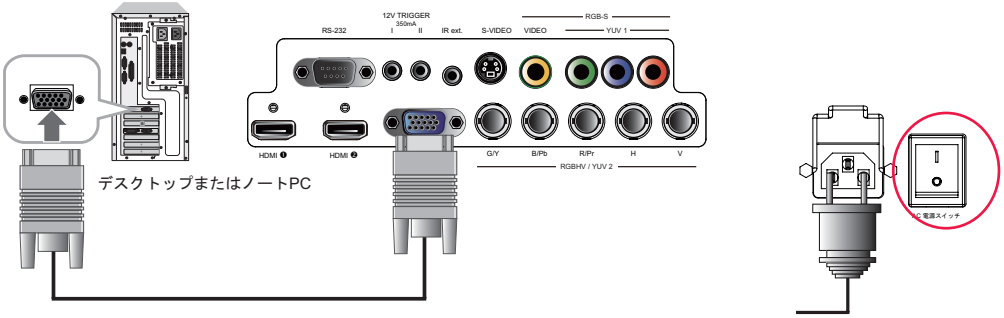
1. 画面の方にプロジェクターを向けます。



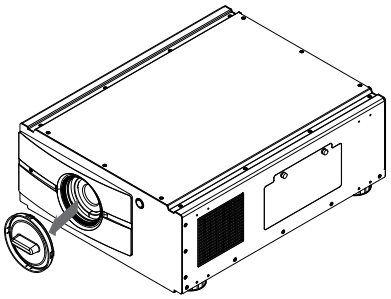
2. 電源コードをプロジェクターに接続します



3. プロジェクターを**PC**に接続し、スイッチを「**I**」に反転させてプロジェクターの電源をオンにします。



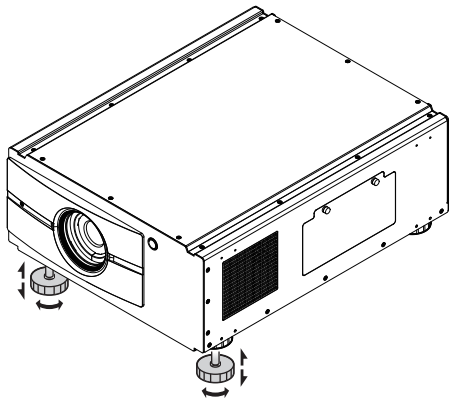
3. 始める前に、プロジェクターのレンズカバーを取り外します。



プロジェクターの STBY ⏻ ボタン、またはリモコンの I ボタンを押してプロジェクターを始動します。

4. プロジェクタの角度を調整する

a. 調整フットを使ってプロジェクターの角度を変更し、画面の投射にもっとも適した角度を得ます。



b. 水平または垂直レンズシフトによりレンズを調整します

方法1: リモコンの入力ボタンを押してLens Control調整画面にアクセスした後にもう一度入力を押してメニューにアクセスし、▼▲▶◀ ボタンを使ってレンズの水平または垂直位置を調整します。

入力を一度押してズームとフォーカスを調整します

入力

入力をもう一度押して垂直または水平レンズシフトを調整します

方法2: リモコンのメニューボタンを押して調整→Lens Controlを選択し、▼▲◀ ▶ボタンを使ってレンズの水平または垂直位置を調整します。

5.フォーカスとズームを調整します。

a. リモコンのメニューボタンを押して調整→Lens Controlを選択し、▶◀ ボタンを使ってレンズのフォーカス(透明度)を調整します。

b. リモコンのメニューボタンを押して調整→Lens Controlを選択し、▼▲ボタンを使って画面に投射される画像のサイズを調整します。

元の画像サイズ

ズームアウト

ズームイン

6. 投射角度に起因するキーストーンを補正する

a. 水平キーストーンを調整するには、リモコンのメニューボタンを押し調整→キーストーン→水平キーストーンを選択し、◀▶ ボタンを使って画像を調整します。

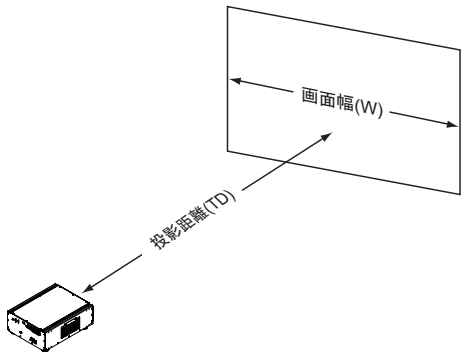
b. *垂直キーストーンを調整するには*、リモコンのメニューボタンを押し調整→キーストーン→垂直キーストーンを選択し、▼▲ *ボタンを使って画像を調整します。*

7. プロジェクターの電源をオフにする

プロジェクターの STBY ボタン、またはリモコンの ボタンを押してプロジェクターの電源をオフにします。プロジェクターの電源がオフになっても、冷却ファンは約90秒間動作を続けます。

投影距離

投影距離(TD) = 画面幅 (W) x 投影比 (TR)



使用可能な投射レンズと組み合わせた場合、プロジェクターの投影比は以下のようになります:

- R9832740-RLDレンズ (0.77 : 1)
- R9832741-RLDレンズ (1.16 : 1)
- R9832742-RLDレンズ (1.45 - 1.74: 1)
- R9832743-RLDレンズ (1.74 - 2.17: 1)
- R9832744-RLDレンズ (2.17 - 2.90: 1)
- R9832745-RLDレンズ (2.90 - 4.34: 1)
- R9832746-RLDレンズ (4.34 - 6.76: 1)

注：
投射レンズはオプションのアクセサリーです。ニーズにもっとも適した投射レンズの入手方法については、最寄りの販売店にお問い合せください。

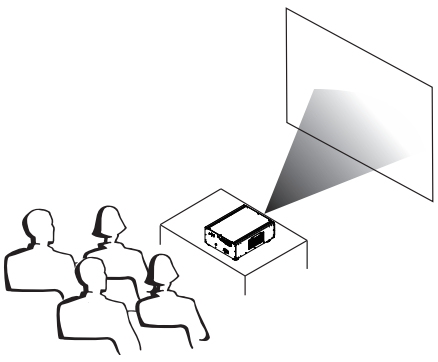
設置方法

- 35° C以下の環境にプロジェクターを設置します。プロジェクターは熱源またはエアコンの換気孔から離して設置する必要があります。
- プロジェクターはモーターやトランスなど、電磁エネルギーを放出するデバイスから離して設置する必要があります。電磁エネルギーを放出する一般的デバイスにはスライドショーシステム、スピーカー、電源アンプ、エレベーターなどがあります。
- 天井にプロジェクターを取り付ける場合、メーカー認定のベンダーにより製造された天井取り付けコンポーネントを必ず使用してください。詳細については、最寄りの代理店にお問い合せください。

前面投射 - デスクトップ設置

メリット: 設置が簡単で 移動や調整が容易、操作しやすい。

デメリット: 床面積を占め、座席収容力に限りがある。



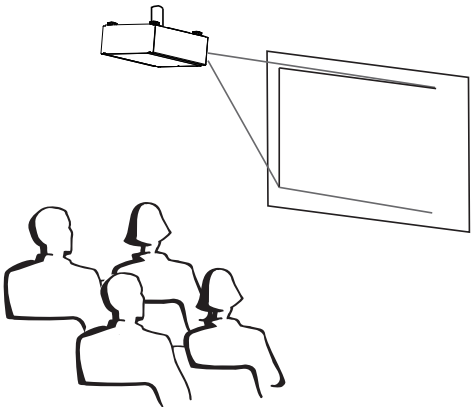
4 プロジェクターを取り付ける

前面投射 - シーリングモード

メリット: 床面積を取らず、そのことに注意を引きつけない。誰かが間違ってプロジェクターを動かす可能性を排除。

デメリット: より厳しい取り付け要件と条件。プロジェクターがしっかり取り付けてあることを確認するために、取り付けの間注意を払わなければならない。

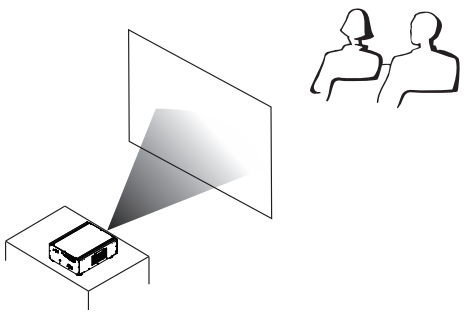
リモコンがないと、プロジェクターの操作が面倒。



背面位置 - デスクトップ設置

メリット: プロジェクターは目につく場所から完全に隠されている。プロジェクターを容易に操作できる。このセットアップでは周囲の騒音が大幅に軽減される。

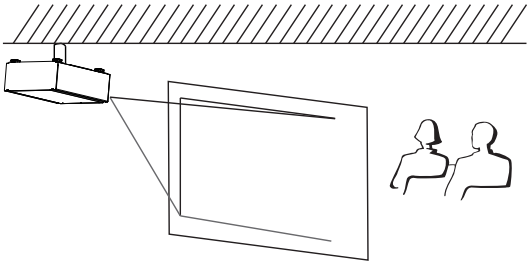
デメリット: 設置に追加のスペースが必要で、設置コストが比較的高くなる。



背面位置 - シーリング設置

メリット: プロジェクターが目につく場所から完全に隠されている。このセットアップでは周囲の騒音が大幅に軽減される。

デメリット: 設置に追加のスペースが必要。より厳しい取り付け要件と条件。プロジェクターがしっかり取り付けてあることを確認するために、取り付けの間注意を払わなければならない。

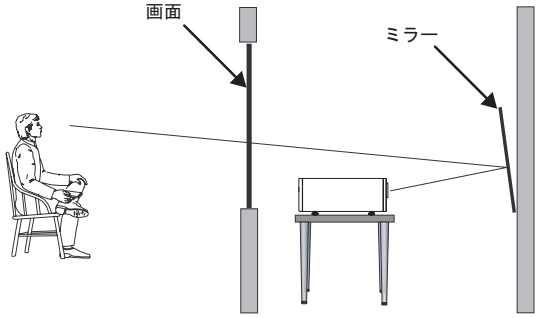


背面位置 - 隠蔽設置

プロジェクターの背後のスペースが限られている背面位置セットアップを希望する場合、鏡を使って光路を反射できる。ただし、プロジェクターと鏡を正確に配置しなければならない。そのような設置を考慮している場合、販売店にその方法をお尋ねください。

メリット: プロジェクターが目につく場所から完全に隠されている。このセットアップでは周囲の騒音が大幅に軽減される。

デメリット: 設置に追加のスペースが必要で、設置コストが比較的高くなる。

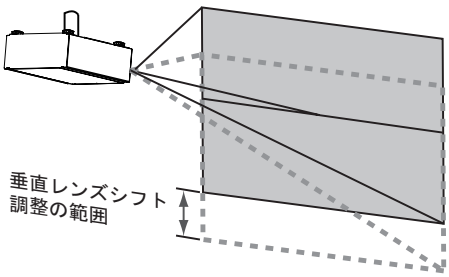


水平および垂直レンズシフト

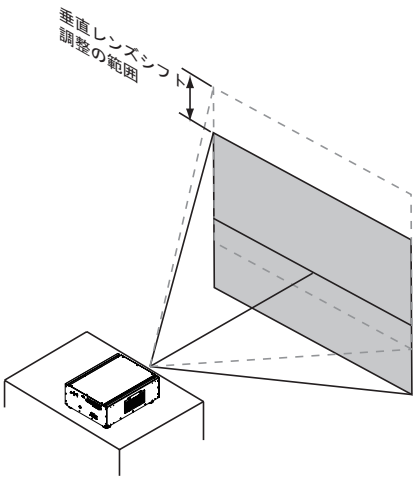
調整フットを使って投射角度を調整できるだけでなく、レンズシフト機能を使って投射された画像を調整することもできます。

レンズを垂直に移動する

垂直レンズ移動距離は、両方向に画面高の半分です。例えば、80" × 50"の画面を使用している場合、画像を上方または下方に25" (0.635m)の距離だけ移動できます。

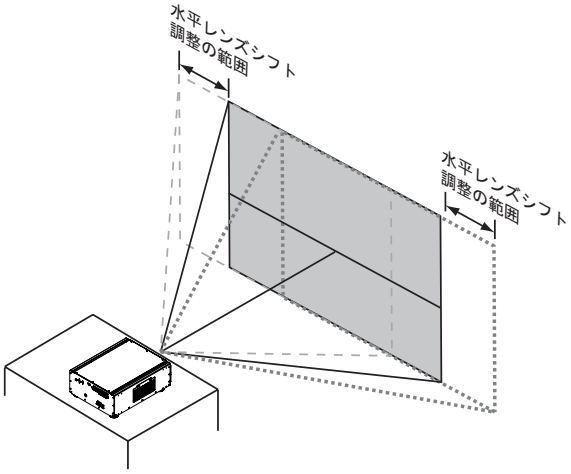


このイラストでは、特殊な仕様のレンズやプロジェクターを使用しない通常の垂直レンズシフトを示しています。



レンズを水平に移動する

水平レンズ移動距離は、両方向に画面幅の30%です。例えば、80" × 50" の画面を使っている場合、画像を左右に12" (0.305m)だけ移動できます。



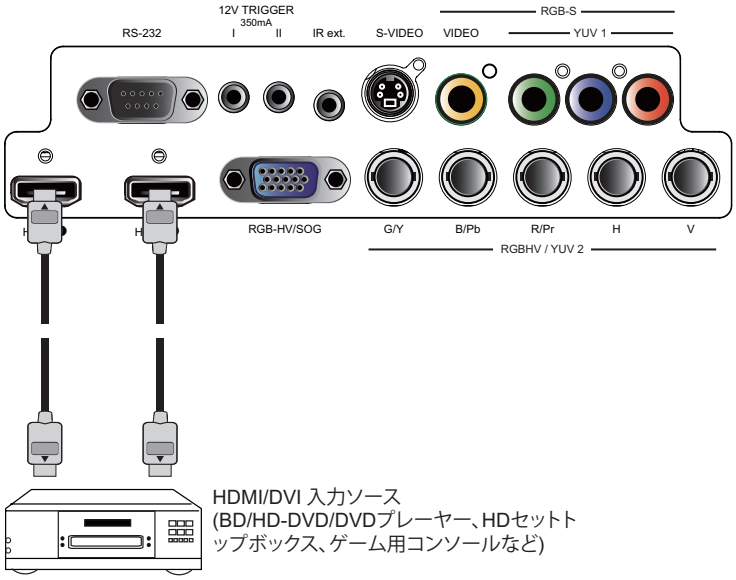
このイラストでは、特殊な仕様のレンズやプロジェクターを使用しない通常の水平レンズシフトを示しています。

注： レンズがニュートラルの位置にあるとき（つまり、水平または垂直にシフトしていない場合）、投射の中心は画面の中心に揃う必要があります。

プロジェクターを他のデバイスに接続する

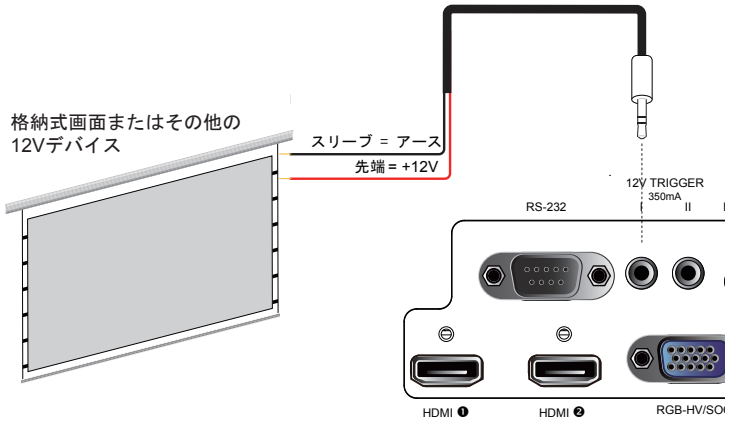
HDMI / DVI接続

画像ソースからの信号は、HDMIを通して送信されるとき最高の投射画像を提供します。従って、画像のソースとしてHDMI出力のある入力デバイスを使用してください。



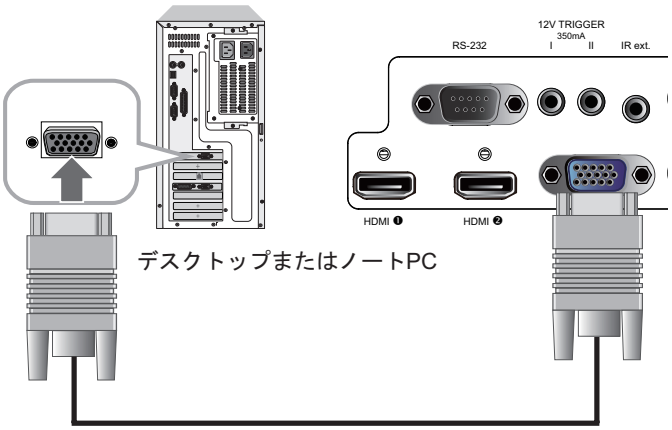
12V Trigger接続

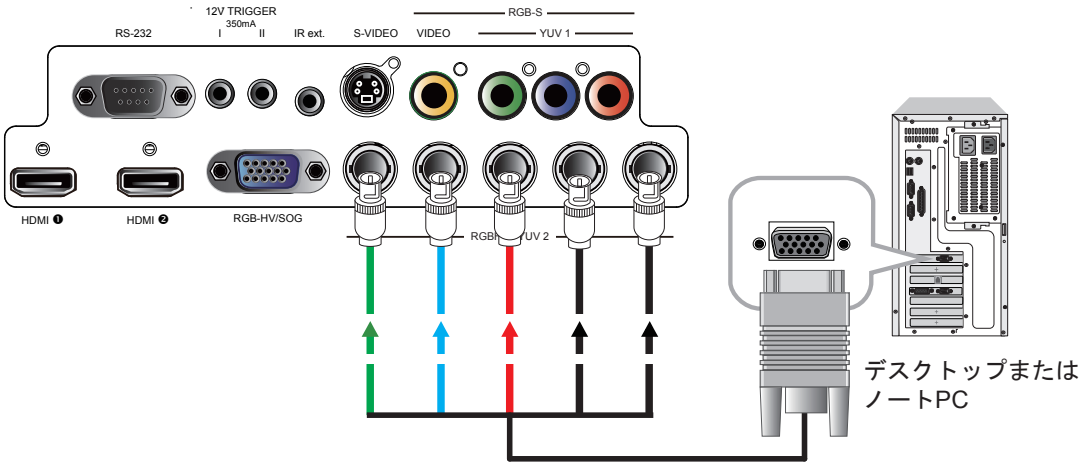
ホームシアターシステムにプロジェクター画面、画面カバーまたは12V Trigger機器が含まれる場合、そのようなデバイス/機器を図のようにプロジェクターの12V Trigger出力に接続してください。接続が済んだ後、
プロジェクターの電源をオンにするだけで画面が自動的に下がり便利です。



RGB接続

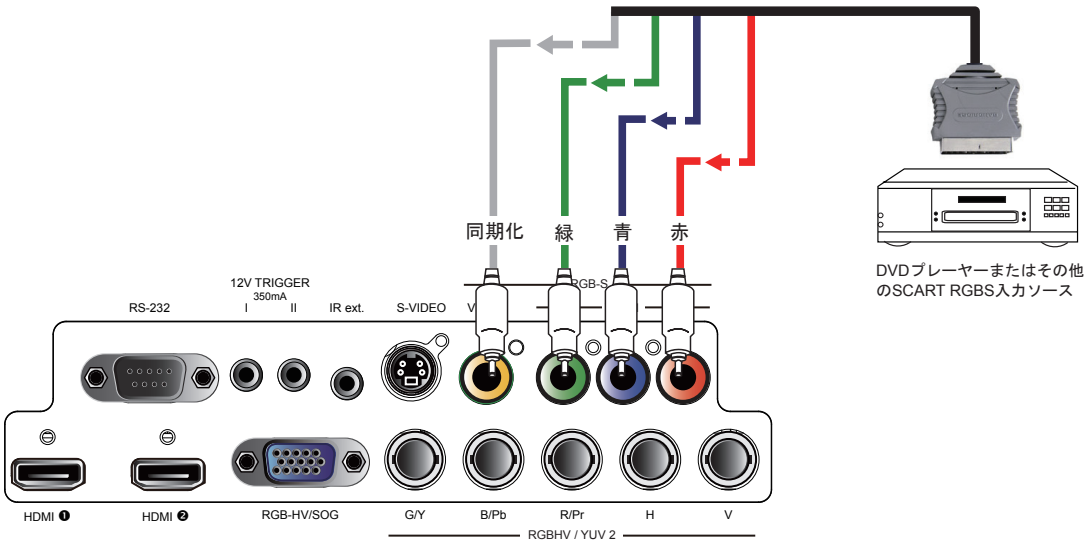
RGB出力のあるPCまたはその他のデバイスを画像のソースとして使用するには、プロジェクターのRGB入力コネクタに接続します。





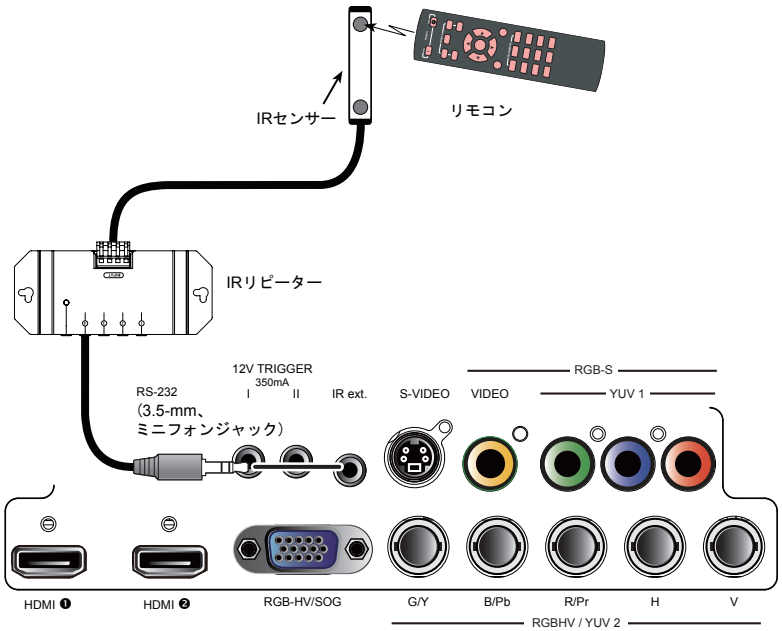
RGBs接続

ソース機器がコンポジット画像同期コネクタを使ってRGBを出力する場合、緑、青および赤のコネクタをコンポーネント1/SCART入力のY、Pb、Prジャックに、同期出力をビデオジャックに接続してください。



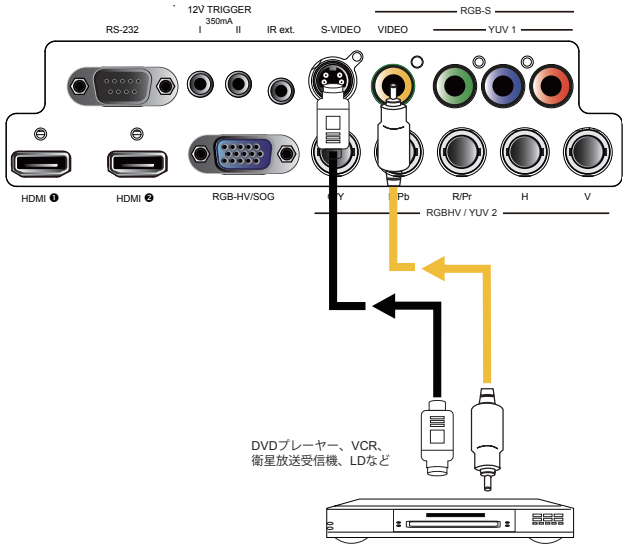
IR入力接続

プロジェクターが距離または障害物（壁やキャビネットドア、など）のためにリモコンからのIR信号を感知できない場合、外部IRリピーターをプロジェクターのIR入力ジャックに接続して有効信号受信範囲を延ばすことができます。



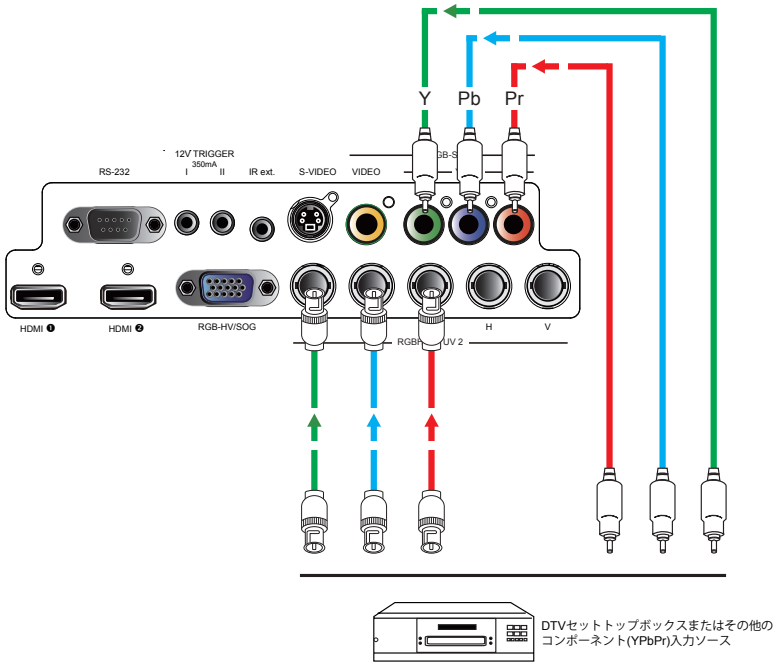
S-Video/ビデオ接続

画像入力デバイスでSビデオとビデオに接続できる場合、優れた画像品質を得るためにS-Videoを選択することをお勧めします。Sビデオとビデオ入力の両方がプロジェクターに接続される場合、プロジェクターはS-Video入力を優先し、ビデオ入力からの画像は再生されません。



コンポーネント接続

ソース機器からプロジェクターのコンポーネント1 SCARTまたはコンポーネント2ジャックに3/5をRGBコンポーネントビデオコネクタにケーブルで接続します。

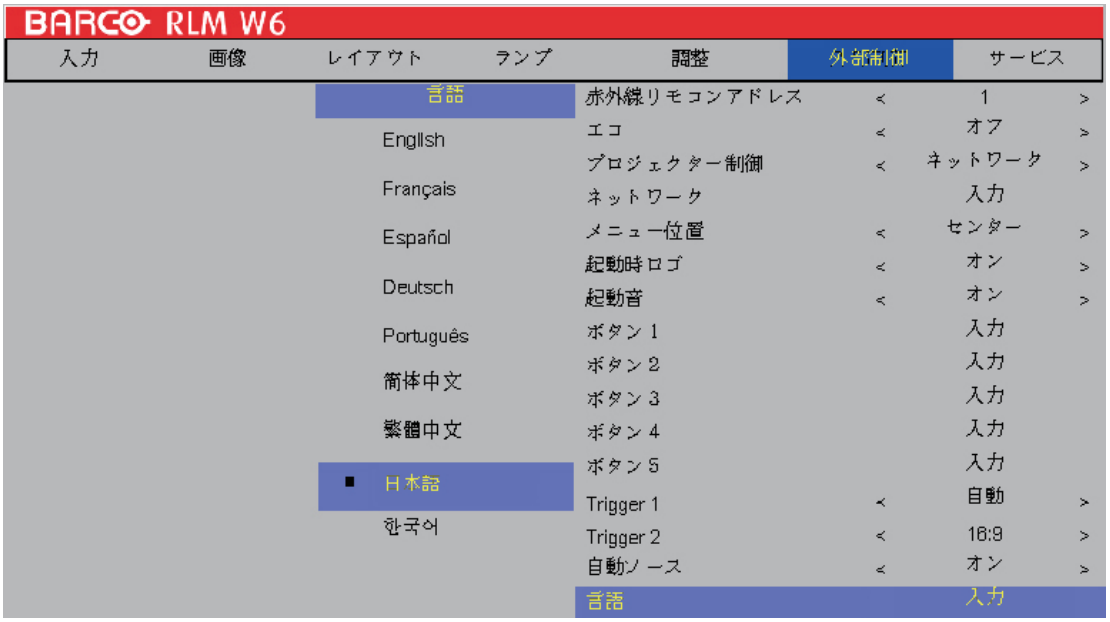


プロジェクター電源オン

第三章「プロジェクターのクイック取り付け」の説明を参照してください。

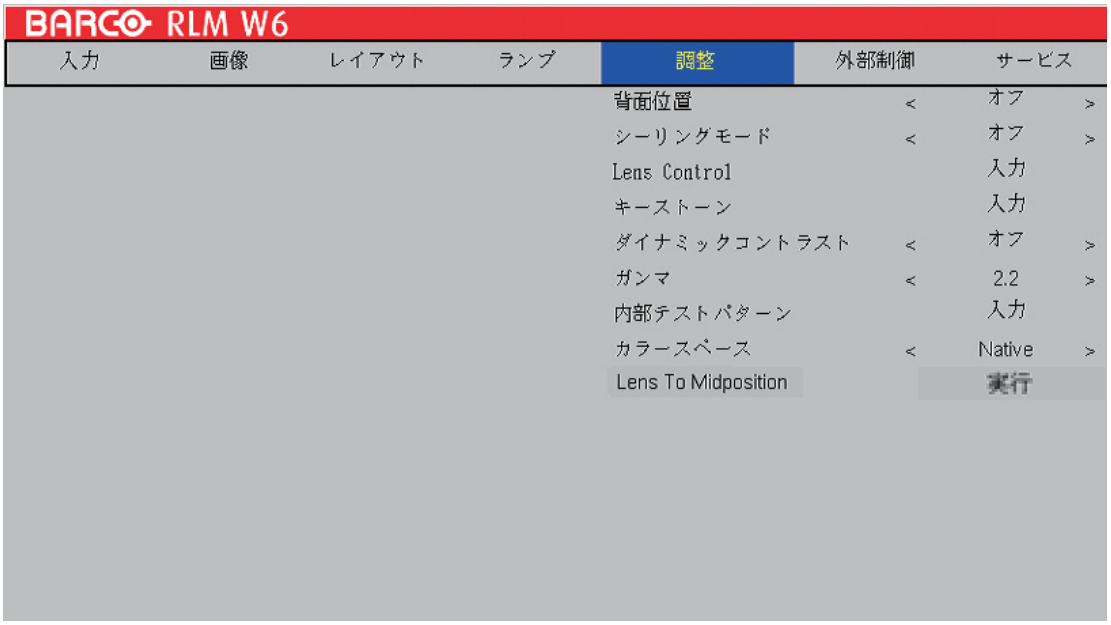
OSD言語を変更する

工場出荷時設定では、プロジェクターのOSDメニューは英語で表示されています。異なる言語に切り替えたい場合、メニュー → 外部制御 →言語に移動してOSDの言語を選択することができます。



画面方向を調整する

デフォルトで、プロジェクターは「前面投射 - デスクトップ設置」に設定されています。他のセットアップでプロジェクターを設置する場合、正しい投射モードを得られるように画面方向を調整してください。



前面投射 - シーリングモード

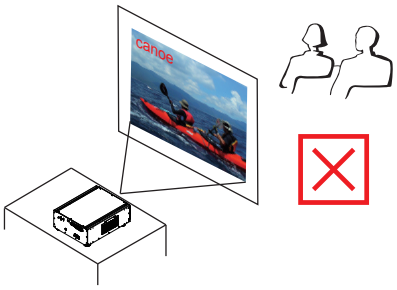
メニュー → 調整 → シーリングモードを順番に押し、オンを選択します。これで、プロジェクターは「前面投射 - シーリングモード」に設定されました。

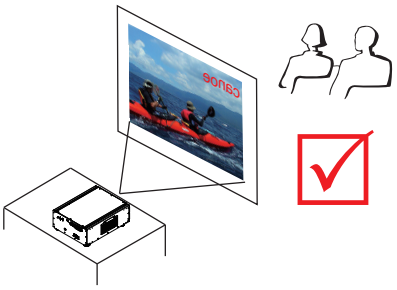
正しいピクチャ

背面位置 - デスクトップ設置

メニュー → 調整 → 背面位置を順番に押し、オンを選択します。これで、プロジェクターは「背面位置 - デスクトップ設置」に設定されました。

正しいピクチャ



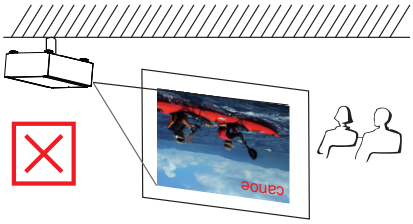


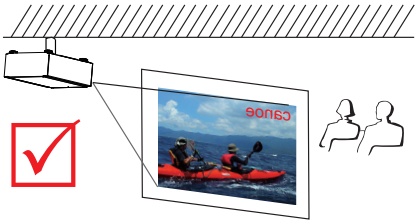
背面位置 - シーリングモード

メニュー → 調整 → 背面位置を押し、オンを選択します。

メニュー → 調整 → シーリングモードをもう一度押し、オンを選択します

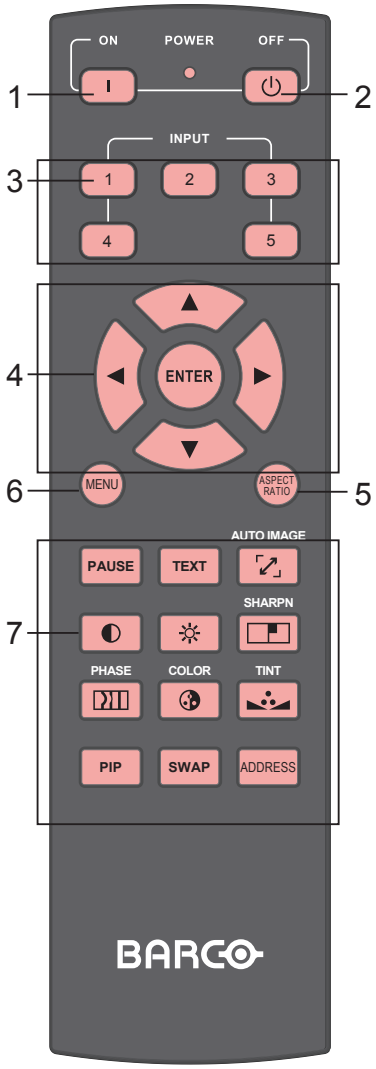
正しいピクチャ





プロジェクターレンズを調整する

プロジェクターレンズ調整にはフォーカス、ズーム、水平/垂直画像シフトが含まれます。詳細な指示については、第三章の「プロジェクターのクイック取り付け > プロジェクターの角度を調整する、プロジェクターのフォーカス/ズームを調整する、投射角度に起因するキーストーンを補正する」を参照してください。



1. I オン
   このボタンはプロジェクターの電源をオンにするために使用されます。

2. ⏻ オフ
   このボタンはプロジェクターの電源をオフにするために使用されます。

3. 1 2 3 4 5
   リモコンのこれらのボタンは、さまざまな画像ソース用のホットキーです。工場出荷時では、これらのボタンは以下のように設定されています:
   1 = HDMI 1
   2 = RGB D-15
   3 = RGBHV/YUV2
   4 = YUV1
   5 = Composite Video

   OSDメニューのそれぞれのボタンに対応する入力ソースを設定できます。これを実行するには、次の手順に従います。

   メニュー > コントロール > ボタン1～5を押し、▼▲ ボタンを使ってさまざまな入力ソースから選択します。から選択できます: HDMI 1、HDMI 2、RGB D-15、YUV 1、RGBHV/YUV 2、Composite Video、S-Video、RGB-Sから選択できます。

   例えば、OSDメニューでRGB D-15として 1 を設定している場合、リモコンで 1 を押すと、プロジェクターにはRGB D-15の画像が表示されます。

4. ▼▲◀▶
   これらのボタンを使って選択または設定を行い、画像表示の設定または切替を調整します。

   入力
   このボタンを使ってメニューのアイテムを選択するか、変更した設定を確認します。
   入力を押した場合、メニューがオフのときにレンズ調整も取り消されます。

5. アスペクト比
   このボタンを繰り返し押すことで、さまざまなアスペクト比をスクロールできます。詳細については、第六章を参照してください（OSDメニュー → アスペクト比）。

6. メニュー
   このボタンを押して、OSDメニューの表示/非表示を切り替えます。

   さまざまな画像調整ボタン

   PAUSE 一時停止
   このボタンを使って投射を一時的に中断します。

   TEXT TEXT
   テキストがオンに設定されているとき、OSDメニューを普通に操作できます。テキストがオフに設定されているとき、オン、オフ、1～5、ピクチャインピクチャ、一時停止のみが普通に機能します。他のボタンを押してもOSDメニューにアクセスできません。

このボタンは画像の
再同期に使用されます。画像信号が不安定になったり画像品質が悪化したりしたら、このボタンを押してください。画面寸法、位相、タイミングなどが自動的に調整されます。（調整はPIP入力にも適用されます）。

コントラスト
画像コントラストを上げたり下げたりするために、画像の白レベルを調整します。

輝度
画像の輝度を上げたり下げたりするために、画像の黒レベルを調整します。

シャープネス
画像のシャープネスと透明度を調整します。

位相
画像がちらついたり、二重になったり、ゆがんだり波打ったりするとき、このボタンを押して調整します。

カラー
画像の色の彩度を調整します。彩度が強すぎると、画像の色は過剰に明るかったり鮮やかになります。他方、彩度が弱すぎると、画像は退色して見えます。

色調
このボタンは、ビデオとS-videoポートを通したビデオ信号入力に対してのみ機能します。このボタンを押すことで、画像のマゼンタと緑の比を調整できます。この設定を低くすると、画像のマゼンタが強くなり、この設定を高くすると画像の緑が強くなります。

ピクチャインピクチャ
このボタンを使って、ピクチャインピクチャを表示したり無効にしたりします。

SWAP
このボタンを使って、画像PIPディスプレイのソースを切り替えます。

アドレス
* 2つのアドレスしか使用できません*
入力ボタンを押したままにし、リモコンパネルが一度点滅するまで押し続けると（約5秒間）、リモコンの受信アドレスが変わります。1つのリモコンを使って2つの異なるプロジェクターを操作する場合、プロジェクターAを操作するときにプロジェクターBが影響を受けないように、2つのプロジェクターに異なるアドレスを割り当てることができます。

OSDメニューツリー

OSDメニューツリー

入力	入力切替	HDMI1 HDMI2 RGB D-15(RGB-HV/SOG)YUV1(RGB-S) RGBHV/YUV2 Composite Video(ビデオ) S-Video RGB-S
	入力ロック	自動 48Hz、50Hz、60Hz
	自動電源オフ	オン オフ
	自動電源オン	オン オフ
	信号なし	ロゴ 青 黒 白
	ビデオ標準	自動 PAL、SECAM、NTSC
	自動画像調整	オフ、自動 常時
画像	コントラスト	0~200
	輝度	0~200
	彩度	0~200
	色調	0~200
	シャープネス	0~200
	ノイズ除去	0~200
	色温度	3200K、5400K、 6500K、9300K、Native
	入力バランス	黒レベル・オフセット 赤オフセット 緑オフセット 青オフセット ホワイトバランス 赤ゲイン 緑ゲイン 青ゲイン
	アスペクト比	5:4、 4:3、 16:10 16:9、 1.88、 2.35 Letterbox、 Native
	タイミング	水平総ドット 水平スタートドット 水平位相 垂直スタートライン
	自動調整	実行

レイアウト	ズーム	オフ クロップ ズーム
	メインセレクト	HDMI1 HDMI2 RGB D-15(RGB-HV/SOG)YUV1(RGB-S) YUV2(RGBHV/YUV2) Composite Video(ビデオ) S-Video RGB-S
	PIP選択	HDMI1 HDMI2 RGB D-15(RGB-HV/SOG)YUV1(RGB-S) YUV2(RGBHV/YUV2) Composite Video(ビデオ) S-Video RGB-S
	PIP位置	左上 右上 左下 右下 スプリットL-R
	ピクチャインピクチャ	オン、 オフ
ランプ	モード	エコ ノーマル 電源
	ランプ	1ランプモード 2ランプモード
	高高度モード	オン オフ
	電源	0~22
	ランプ1 ステータス	オン オフ
	ランプ2 ステータス	オン オフ
	ランプ1 点灯時間	XX HRS
	ランプ2 点灯時間	XX HRS

6 OSDメニューの説明

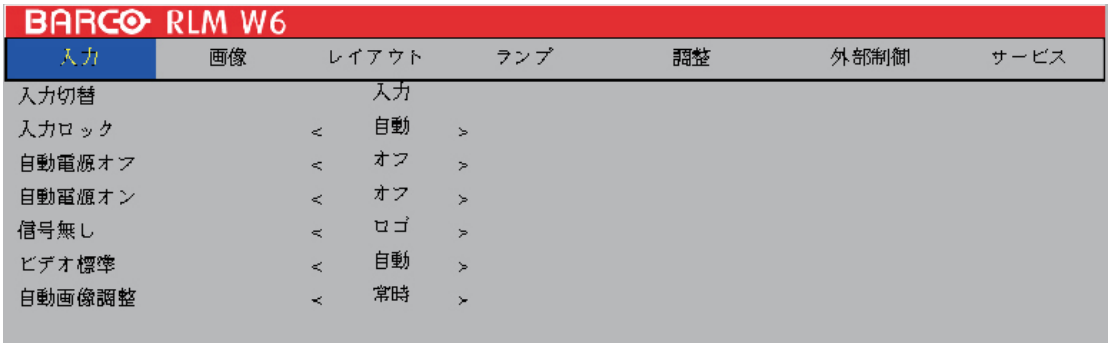
調整	背面位置	オン オフ
	シーリングモード	オン オフ
	Lens Control	ズーム/フォーカス シフト
	キーストーン	水平キーストーン 垂直キーストーン
	ダイナミックコントラスト	オン (1～12パターン) オフ (0 オフ)
	ガンマ	1.8　2.0　2.2 2.35　2.5
	内部テストパターン	オン オフ
	カラースペース	Native、 EBU、 SMPTE カスタム
	Lens To Midposition	実行
コントロール	IRアドレス	1 2
	エコネットワーク電源	オン オフ
	プロジェクター制御	RS-232 ネットワーク
	ネットワーク	IPアドレス サブネットマスク ゲートウェイ DHCP (これらは、読み込み専用情報です)
	メニュー位置	左上 右上 左下 右下 中央
	起動ロゴ	オン オフ
	起動音	オン オフ
	ボタン1	HDMI1 HDMI2 RGB D-15(RGB-HV/SOG)YUV1(RGB-S) YUV2(RGBHV/YUV2) Composite Video (ビデオ) S-Video RGB-S
	ボタン2	
	ボタン3	
	ボタン4	
	ボタン5	
	Trigger 1	5:4 、 4:3、 16:10 16:9、 1.88、 2.35 Letterbox、 Native、 自動
	Trigger 2	
	自動ソース	オン オフ

コントロール	言語	英語 フランス語 スペイン語 ドイツ語 ポルトガル語 簡体字中国語 繁体字中国語 日本語 朝鮮語
サービス	モデル	読み込み専用情報
	シリアル番号	
	ソフトウェアバージョン	
	入力/PIPソース	
	ピクセルクロック	
	信号形式	
	水平/垂直の更新率	
	ランプ1 点灯時間	
	ランプ2 点灯時間	
	ランプ使用時間リセット	ランプ1 使用時間リセット ランプ2 使用時間リセット
	プロジェクター使用時間	読み込み専用情報
	青のみ	オン オフ
	ファクトリーリセット	コマンドは、プロンプトダイアログボックスの確認の後で実行されます。

OSD説明

1. リモコンまたはプロジェクター背面の[メニュー]ボタンを押して、OSDメニューを表示します。
2. 7つの機能メニュー (入力、画像、レイアウト、ランプ、調整、外部制御、サービス)が表示されます。◀ または ▶ を押して希望するサブメニューを選択します。
3. ▲または ▼ を押して希望するサブメニューを選択します。
4. それぞれのサブメニューの現在の選択は黄色いテキストで表示され、青でハイライトされます。◀ または ▶を押して選択したアイテムの設定にアクセスするか入力を押して別のサブメニューに進みます。
5. メニューを押して前のメニューに戻ります。
6. メインメニューから、メニューを押してOSDメニューを閉じます。

入力



入力切替

この機能を使って、プロジェクター背面に接続された画像のソースを指定します。例えば、ビデオ入力ソースとしてPCを接続した場合、画像投射用の入力にRGB D-15(RGB-HV/SOG)を選択できます。
プロジェクターで使用可能な入力のオプションには、以下があります: **HDMI1、HDMI2、RGB D-15(RGB-HV/SOG)、YUV1(RGB-S)、YUV2(RGBHV/YUV2)、Composite Video(ビデオ)、S-Video、RGB-S。**

入力ロック

この機能を使って、画像入力信号の周波数を指定します。最適の投射周波数をプロジェクターの側で自動的に決定したり、指定した周波数で画像を投射したりできます。

- 自動
  この機能のプリセット値は自動です。入力デバイスからの垂直リフレッシュ周波数を48～62Hzの間で指定すると、入力信号の周波数が自動的にロックされるため、最適の画像出力が得られるように両方の信号入力と出力は同じ周波数でリフレッシュされます。入力信号の周波数が24～31Hzの間に落ちると、垂直リフレッシュ周波数は自動的に2倍になります。入力信号の周波数が

31～48Hzの間に落ちるか、62Hzを超えると、周波数は自動的に60Hzに設定されます。

- **50Hz**
  このオプションを選択して、画像出力周波数を50Hzに設定します。
- **60Hz**
  このオプションを選択して、画像出力周波数を60Hzに設定します。

注： ピクチャインピクチャを有効にすると、PIP入力信号の周波数はメインの入力信号で自動的に同期化されます。

自動電源オフ

デフォルト値はオフです。オンに設定すると、入力信号が入らない場合プロジェクターは20分後に自動的に停止します。

自動電源オン

デフォルト値はオフです。これをオンに設定すると、プロジェクターがAC電源に接続された場合自動的に起動します。プロジェクターの電源コードをスイッチの付いたACソケットに差し込むと、リモコンの代わりにソケットのスイッチを使ってプロジェクターを起動できます。この機能が不要な場合、オフに設定してください。

信号無し

この機能を使うと、入力信号が使用できないとき空白の画面に表示する内容や色を指定できます。ロゴ、青、黒、白から選択できます。デフォルト値はロゴです。

ビデオ標準

国によって、使用するビデオ信号形式が異なります。地域のビデオ標準を選択してください。

- 自動
  これはデフォルト値です。地域で使用されているビデオ標準が自動的に決定されます。
- **PAL** (パル方式)
  ドイツで開発されたビデオ標準（毎秒25フレームで走査線数625本） PAL方式はドイツ、イギリス、南米、オーストラリア、中国および多くの西ヨーロッパとアジア諸国で使用されています。
- SECAM (セカム方式)
  フランスが開発した走査線数625本のビデオ標準。SECAM規格を使用する地域には旧東ドイツ、チェコスロバキア、エジプト、ポーランドなどがあります。
- **NTSC** (米国テレビジョン方式委員会)
  米国の米国テレビジョン方式委員会が開発した1フレームあたり走査線数525本のビデオ標準。NTSC規格は主に米国、日本、カナダ、メキシコで使用されています。

注： 通常は、お住まいの地域で使用されているビデオ標準が自動的に検出されます。ただし、使用されているビデオ標準がプロジェクターで読み取れない場合があり、そのようなときユーザーがビデオ標準を手動で設定する必要があります。地域で使用されているビデオ標準が分からない場合、専門技術者に連絡し地域で使用されているビデオ標準をお尋ねください。

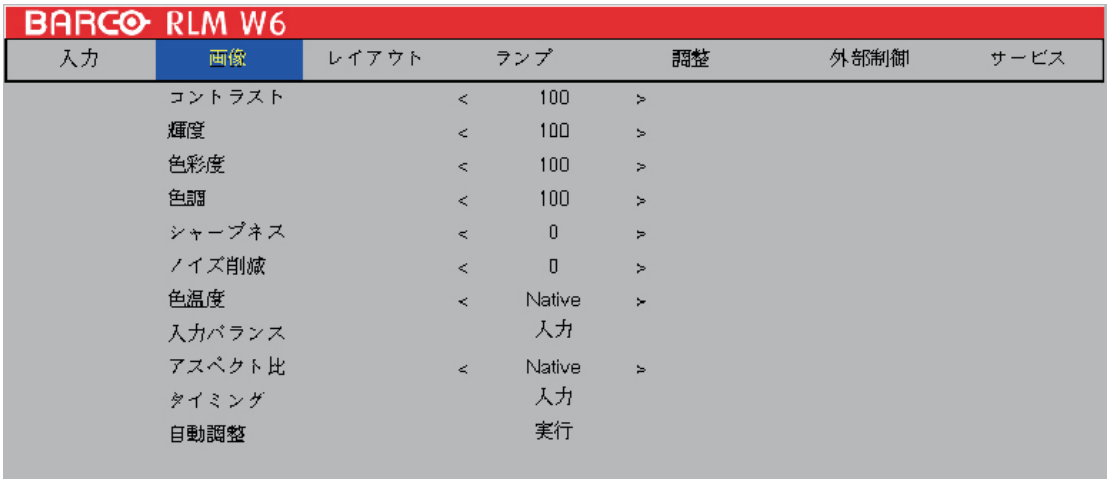
自動画像調整

自動画像調整機能を次の3つのモードのどれかに設定できます。

- オフ = 一度もなし
- 自動 = 前に実行されていないとき(または、初めて実行するとき)
- 常時 = 新しいソースが選択されたとき、または新しいソースが接続されたとき。

自動画像調整の詳細については、第六章の → 画像 → 自動調整を参照してください。

画像



コントラスト

◀▶ を使って、投射された画像のコントラストを調整します。外部画像ソースにプロジェクターを接続して、以下に表示されたものに似た画像を表示して調整を行うことができます。スペクトルの輝度が常に一定を保つように、また黒と白の間で最大のコントラストが得られるように、以下に表示された結果に従って、投射された画像を調整することをお勧めします。

次の画像は、ランダム画像を使用して直接コントラスト調整した結果を示しています。

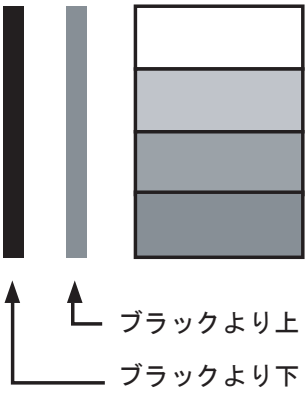
◀ 低減したコントラスト　　元の画像　　強化されたコントラスト ▶

輝度

◀▶ を使って、投射された画像の輝度を調整します。外部画像ソースにプロジェクターを接続して、表示されたものに似た画像を表示して（PLUGE、ピクチャラインアップ生成機器）調整を行うことができます。PLUGE画像には多くのバージョンがありますが、一般には黒の背景の上の黒、白およびグレイのブロックで構成されます。

画像を次のステータスに調整するようにお勧めします。

- 画像のもっとも暗い黒いバーは、背景で見えなくなります。
- 暗いグレイの領域はどうにか見える程度です。
- 明るいグレイの領域ははっきり見えます。
- 白い領域は、リアルに柔らかく見えます。。
- 画像は黒、グレイおよび白でのみ表示されます(他の色はありません)。



コントラスト、輝度、彩度、色調は互いに影響する相互オプションです。これらのオプションのどれかを調整すると、最高の投射結果を得るために他の設定を微調整する必要があります。

次の画像は、ランダム画像を使用して直接輝度調整した結果を示しています。

◀ 低減した輝度　　元の画像　　強化された輝度 ▶

色彩度

◀▶を使って投射された画像の彩度を調整します。投射された画像の色が過度に明るかったり鮮やかであったりする場合、彩度を落としてください。色が白かったり退色しているように見える場合、彩度を上げてください。

◀ 低減した彩度　　元の画像　　強化された彩度 ▶

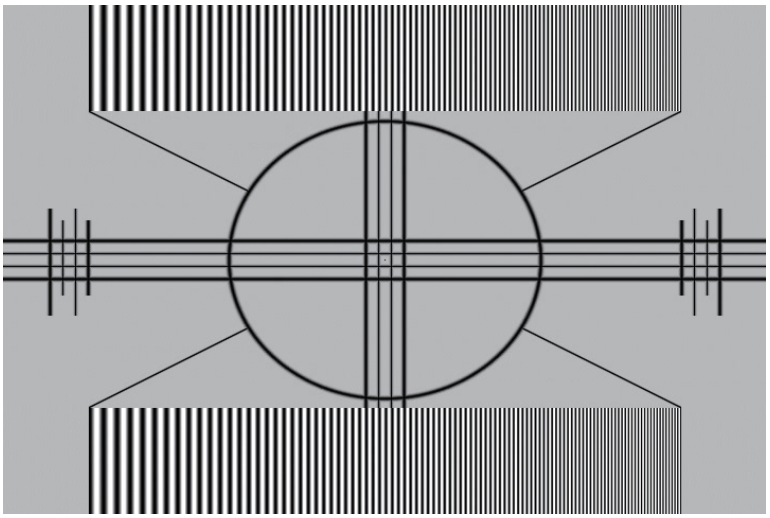
色調

◀▶を使って投射された画像の色調(マゼンタと緑の間のバランス)を調整します。値を下げると画像は赤っぽくなり、値を上げると画像の緑が強くなります。

◀ 低減した色調　　元の画像　　強化された色調 ▶

シャープネス

シャープネスの調整では、主に高い周波数の細部の値が変更されます。外部画像ソースにプロジェクターを接続して、以下に表示されたものに似た画像を表示して画像のシャープネスを調整することができます。



次の画像は、ランダム画像を使用した直接シャープネス調整の結果を示しています。

◀ 低減したシャープネス　　元の画像　　強化されたシャープネス ▶

ノイズ削減

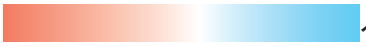
◀▶ を使って、投射された画像のノイズを調整します。この機能は、インターリービングSD入力からの画像ノイズの除去に最適です。通常、画像ノイズを下げると高周波数の細部の値が低くなり、画像は柔らかく見えます。

➡

ノイズ除去

色温度

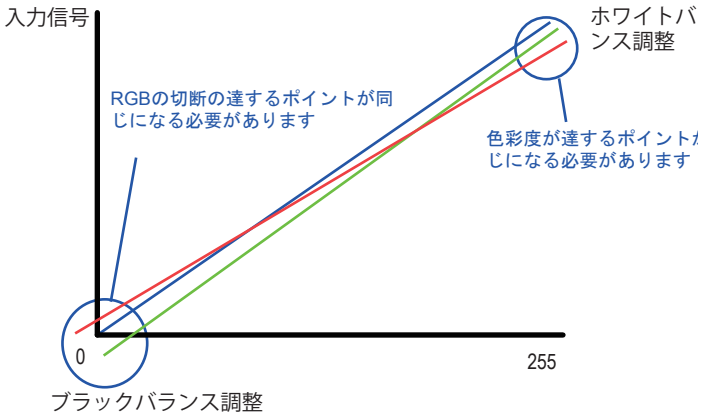
3200K、5400K、6500K、9300K、Nativeから選択できます。

色温度は、裸眼で知覚されるさまざまなエネルギー下の明るい色の変化を指します。可視光で低から高へ色温度が変化すると、色はオレンジレッド→ 白 → 青  へと変わります。

プロジェクターのデフォルトの色温度は6500Kに設定されており、ほとんどの状況に適しています。色温度が上昇すると、画像は青みがかって見え、下降すると、画像は赤みがかって見えます。「Native」を選択すると、入力デバイスの白の調整機能が無効になります。

入力バランス

周辺光の変化にかかわらず、人の目には白い物体は白く見え黒い物体は黒く見えるように、自動調整メカニズムが組み込まれています。ただし、機械にはこのような驚くべき持って生まれた機能がないため、周辺光が変わったとき、画像が実際の色に近づくようにプロジェクターの設定を調整する必要があります。



オフセット

この機能は、投射された画像の暗い領域の色のアンバランスをコントロールします。暗い色とグレイの色の多くの領域で外部テスト画像を使うことをお勧めします（すなわち、30IREウィンドウの画像）。グレイ領域で最低限の赤、緑または青しか認められない場合、それに従って対応する色のオフセットを調整してください。この機能は画像全体の色のスペクトルをそのまま移動し、その輝度を変えます。

ゲイン

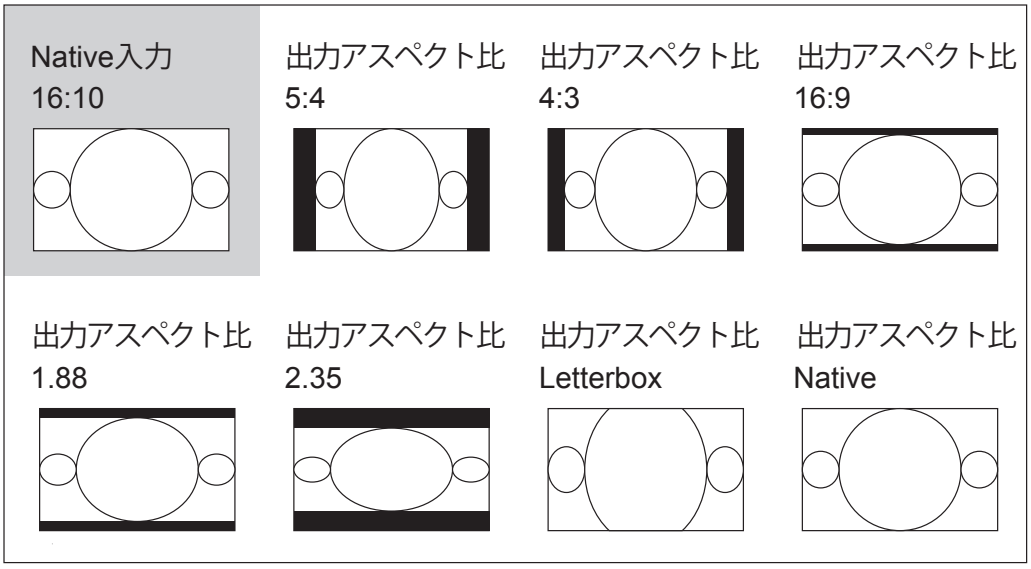
この機能は、投射された画像の明るい領域の色のアンバランスをコントロールします。白い色の多くの領域で外部テスト画像を使うことをお勧めします（すなわち、80IREウィンドウの画像）。グレイ領域で最低限の赤、緑または青しか認められない場合、それに従って対応する色のゲインを下げてください。この機能は、画像全体の色入力の範囲の増減に使用されます。
通常、ゲインが増加すると、画像のコントラストは低くなります。オフセットを増すことによって、画像の輝度は低くなります。

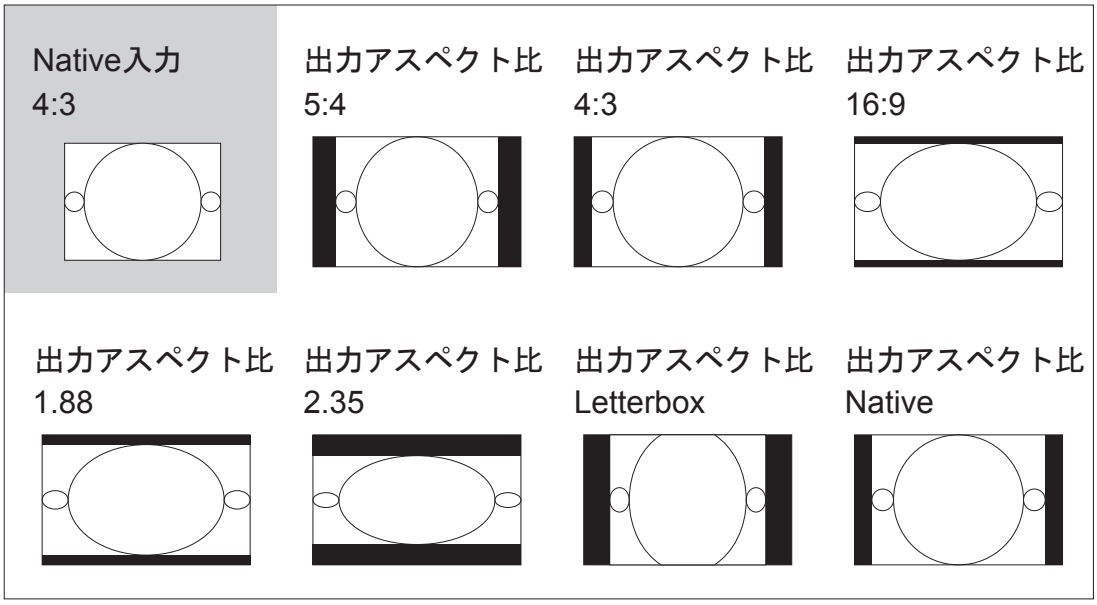
- 黒レベル・オフセット
  この機能には、次の赤、緑および青オフセットの調整が含まれます。
  テキストそのものは装飾です。
- 赤のオフセット
  ◀▶を押して、暗いスケールの赤のオフセットを調整します。
- 緑のオフセット
  ◀▶を押して、暗いスケールの緑のオフセットを調整します。
- 青のオフセット
  ◀▶を押して、暗いスケールの青のオフセットを調整します。
- ホワイトバランス
  この機能には、次の赤、緑および青ゲインの調整が含まれます。テキストそのものは装飾です。
- 赤のゲイン
  ◀▶を押して、明るいスケールの赤のゲインを調整します。
- 緑のゲイン
  ◀▶を押して、明るいスケールの緑のゲインを調整します。
- 青のゲイン
  ◀▶を押して、明るいスケールの青のゲインを調整します。

アスペクト比

この機能を使って、投射された画像のアスペクト比を調整します。◀▶を使って、画像の長さと幅の比を調整します。

プロジェクターの画像全体のサイズは16:10 (1920×1200ドット)です。次の図は、さまざまなアスペクト比設定の違いを示しています。



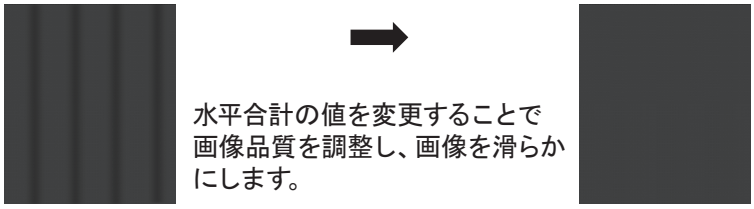


画像の切り取られた部分

例えば映画館、ホテル、カフェやその他の公の場所を含め、商業目的で使用するとき、アスペクト比の変更によって画像を圧縮したり拡張すると、画像の正当な持ち主の著作権を侵害する可能性があります。これは、ご自身の判断で行ってください。

タイミング

- 水平総ドット
  を押して ◀▶、水平合計を調整します。
  この機能を使って、ピクセルサンプリングのクロック周波数を調整します(ADCで生成されたアナログ入力ソースの水平ピクセル周波数)。画像にちらつきや縦のラインが表示される場合、ピクセルサンプリング周波数が不十分であることを意味します。この機能を使って周波数を調整し、一貫した画像品質を得ることができます。
  次の画像は、外部信号ソースからのテスト画像の一例です。

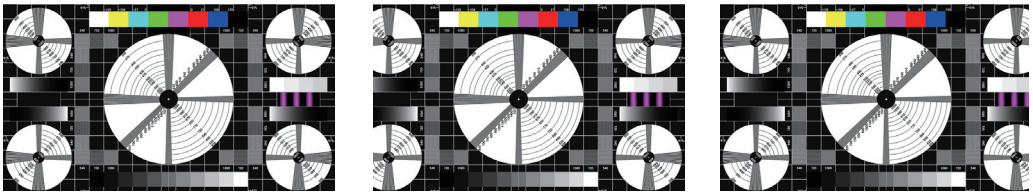


水平合計の値を変更することで画像品質を調整し、画像を滑らかにします。

タイミングを調整するには、使用されるパターンはピクセルにする必要があります (オン/オフ)

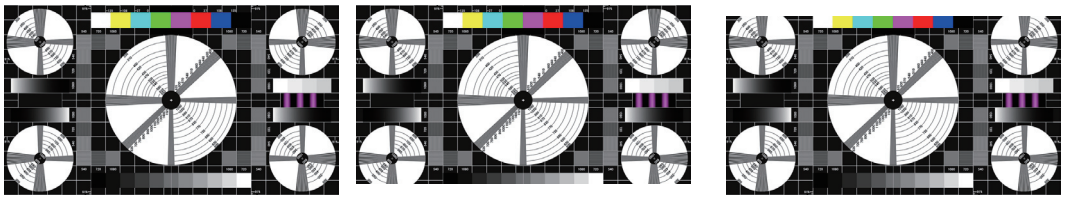
- 水平スタートドット
  を使って、◀▶投射された画像の水平位置を調整します。
  投射された画像が画面の中央に来ず(すなわち、右または左にシフトする)端が切り取られる場合、この機能を使って画像の水平位置を調整します。次の画像は、外部信号ソースからのテスト画像の一例です。

Nativeピクチャ　左に歪み　右に歪み



- 水平位相
  ◀▶を使って、投射された画像の位相を調整します。
  この機能を使って、ピクセルサンプリングクロックの位相(入力信号に相対的)を調整します。
  最適化しても画像がちらついたりノイズが表示されたりする場合（すなわち、テキストの端）、それに従って位相を調整してください。
- 垂直スタートライン
  ◀▶を使って、投射された画像の垂直位置を調整します。
  投射された画像が画面の中央に来ず(すなわち、上または下にシフトする)端が切り取られる場合、この機能を使って画像の垂直位置を調整します。次の画像は、外部信号ソースからのテスト画像の一例です。

Nativeピクチャ　下に歪み　上に歪み



画像を調整する際は、水平位相の前に水平合計を調整するようにお勧めします。ただし、両方を調整したのに画像がちらつく場合、画像ノイズを低くしてみてください。

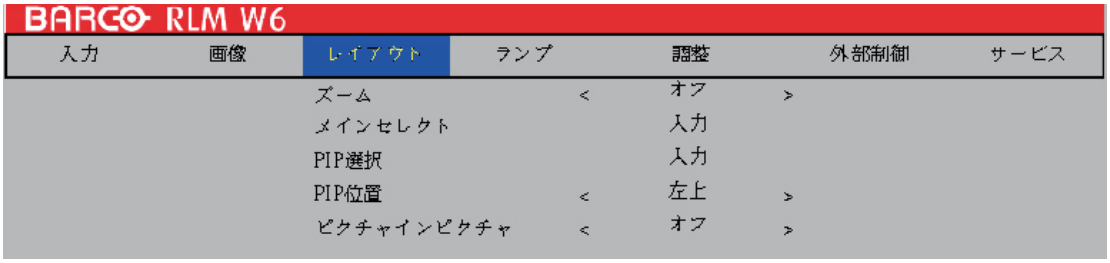
自動調整

OSDメニューで自動調整を選択したとき、入力を押して自動画像調整機能を実行してください。

この機能を実行することで、画像は再同期されます。画像ソースが不安定なときまたは画像品質が悪化したとき、画像サイズ、位相およびタイミングが自動的に調整されます。（調整は、PIP入力ソースにも適用されます）。

この機能は、リモコンの ボタンと同じです。リモコンのホットキーを使用すればこの機能を実行できます。

レイアウト

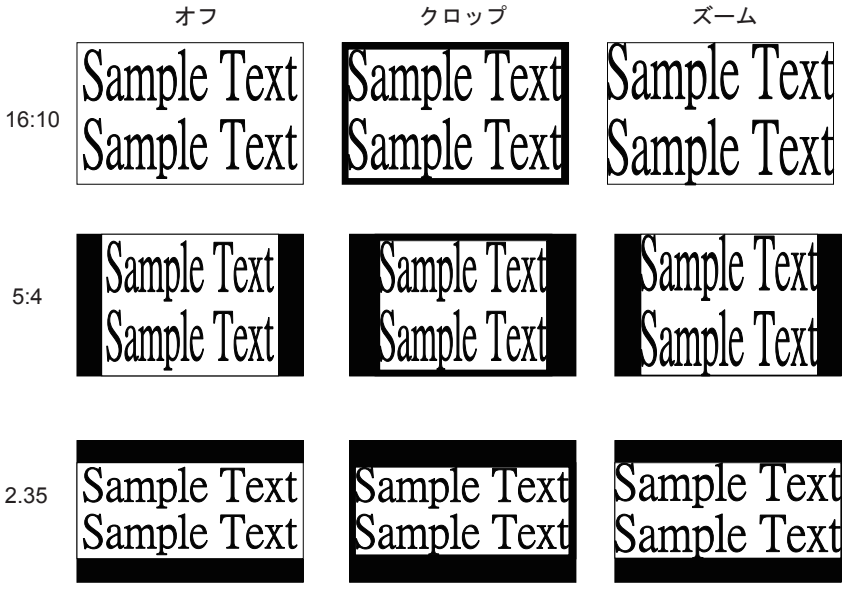


ズーム

古いテレビシステムを使っているユーザーも一部にいるため、画像の端が表示されないテレビ番組もあります。この機能を使えば、次の3つのオプションのどれかを選択することで画像の端を非表示にすることができます。

- オフ
  これをオフに設定すると、投射された画像は変更されません。
- クロップ
  これを「クロップ」に設定すると、画像のどちらかの側に3%の水平解像度に等しい2つの「マスク」が、また投射された画像の上下に同様の2つのマスクが追加されます。
- ズーム
  この機能を使って、デフォルトのアスペクト比の106%以上に画像の水平解像度を拡大できます。元の画像を超える部分はすべて切り取られます。

アスペクト比を「Native」に設定するとき、ズームを「オフ」または「クロップ」に設定するのを忘れないでください。



メインセレクト

PIP画像を投射するとき、この機能を使ってPIP画像用に画像ソースを指定します。この機能は入力切替と同じです。詳細については、「入力切替」の項を参照してください。

PIP選択

この機能を使って、サブウィンドウのソースを選択します。HDMI1、HDMI2、RGB D-15 (RGB-HV/SOG)、YUV1、RGBHV/YUV2、Composite Video(ビデオ)、S-Video、RGB-Sなどから選択できます。

PIP位置

お好みに従って、メインピクチャの5つの異なる場所に、サブウィンドウを表示するように選択できます。

左上

右上

スプリットL-R

左下

右下

ピクチャインピクチャ

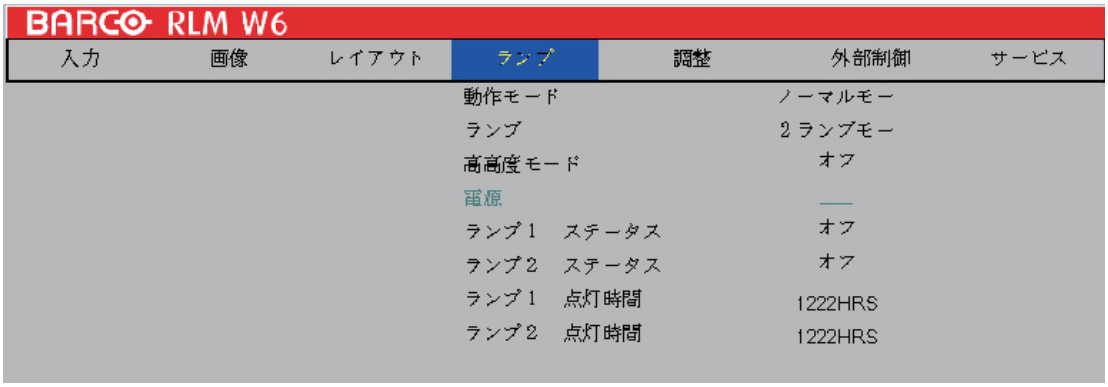
PIP画像を表示する場合、ここで設定を行うことができます。「オン」を選択することで、投射された画像に2つのウィンドウが表示されます。大きい方のウィンドウはメイン画像で、小さい方はサブ画像です。「オフ」を選択することで、PIP機能は無効になり、画像ウィンドウは1つしか表示されません。

PIPがオンになっているとき、有効なメインとPIPソースの選択については、次のメインおよびPIPソースマトリクスを参照してください。

		メインセレクト							
		HDMI1	HDMI2	RGB D-15	YUV1	RGBHV/ YUV2	Composite Video	S-Video	RGB-S
PIP 選択	HDMI 1		–	O	O	O	O	O	O
	HDMI 2	–		O	O	O	O	O	O
	RGB D-15	O	O		–	–	O	O	O
	YUV 1	O	O	–		–	O	O	–
	RGBHV/ YUV 2	O	O	–	–		O	O	–
	Composite Video	O	O	O	O	O		–	–
	S-Video	O	O	O	O	O	–		–
	RGB-S	O	O	O	–	–	–	–	

O はソースが使用できることを意味します。 ； — は該当なしを意味します

ランプ



本章では、プロジェクターのランプに関する情報を扱います。

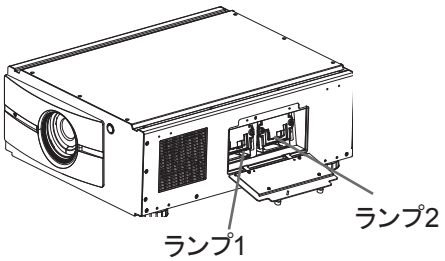
動作モード

- エコ
  エコモードに設定しているとき、ランプのワット数は230Wになります。周囲の環境が十分に暗い場合、または強い光を必要としない場合、ランプをエコモードに設定すると寿命が延びます。
- ノーマル
  ノーマルモードに設定しているとき、ランプのワット数は280Wになります。投射環境に明るい画像が必要な場合、ランプをノーマルに設定すると、もっとも明るい投射画像が得られます。
- 電源
  エコモードでは画像の輝度が暗すぎノーマルモードでは明るすぎる場合、これを電源に設定してランプの電源を自分自身で指定し、投射された画像の輝度を微調整できます。エコモードでは画像の輝度が暗すぎノーマルモードでは明るすぎる場合、これを電源に設定してランプの電源を自分自身で指定し、投射された画像の輝度を微調整できます。この機能にアクセスするには、OSDメニュー → ランプ → 電源を順にクリックし、それに従って調整します。

ランプ

アプリケーションの状況によっては、OSDメニュー経由で1ランプまたは2ランプを選択できます。プロジェクターが1ランプから2ランプに切り替わったとき、砂時計OSDが現れ7秒間それ以上のOSD操作をブロックします。プロジェクターが2ランプモードから1ランプに切り替わったとき、ランプ選択OSDがブロックされ90秒間ランプの冷却を行います。ランプ電力は82%～100%の範囲で調整できます。

- 1ランプモード
  投射環境が十分に暗く1ランプで希望する投射輝度を得られるとき、1つのランプを使用するように選択できます。ランプ1とランプ2の使用時間はプロジェクターによって自動的に決められ、操作には時間が短い方のランプが選択されます。
- 2ランプモード
  プロジェクターから明るい画像が必要なとき、2ランプモードでプロジェクターを操作してください。



高高度モード

この機能を使って、プロジェクターの冷却ファンをコントロールします。このモードは、オフまたはオンに設定できます。デフォルト設定はオフです。

ノーマルな環境下では、プロジェクターはこの機能をオフに設定しているときにノーマルに作動します。デフォルトで、プロジェクターは周囲の環境の温度を検出し冷却ファンの速度を調整します。周囲の温度が上がると、ファン速度が上昇して（大きなノイズを生成し）プロジェクター内部の熱が放出されプロジェクターをノーマルに作動します。

ただし、過度に暑い環境または高高度エリアでプロジェクターを操作すると、プロジェクターは自動的に停止します。この場合、これをオンに設定して機能を有効にし冷却ファンを高速で強制作動してプロジェクター内部の温度を調整することができます。

- 高高度地域とは、海抜1500m(4900フィート)以上のエリアを指します。
- ノーマルな高度環境で操作しているとき、プロジェクターは作業環境の温度に従って冷却ファンを調整します。温度が30℃より高くなると、ファン速度は自動的に上がります。
- 製品仕様では、プロジェクターの最大の操作高度は25℃の場合3000mです。これは、作業環境が25℃以上の場合、プロジェクターを高高度で操作してはいけないことを意味します。（高高度では空気がかなり薄くなるため、冷却ファンによって得られる冷却の結果は平地での操作に比べかなり落ちます。気圧が低かったり運転温度が高かったりすると、冷却ファンは熱を適切に放出できません）。

電源

ランプをエコまたはノーマルモード（OSDメニュー → ランプ → モード）に設定している場合、この機能は使用できません。ランプを「電源」に設定しているときのみ、この設定を調整できます。ランプ電源は82%～100%の範囲で指定できます。通常、電源が低ければ、画像は薄暗くなりますがランプの寿命は延びます。それとは対照的に、電源が高ければ、画像は明るくなりますがランプの寿命は短くなります。

ランプ1 ステータス

この機能は、ユーザーにランプ1のステータス（オンまたはオフ）を通知する表示目的に限定されます。

ランプ2 ステータス

この機能は、ユーザーにランプ2のステータス（オンまたはオフ）を通知する表示目的に限定されます。

ランプ1 点灯時間

この機能は、ユーザーにランプ1の合計点灯時間を通知する表示目的に限定されます。

ランプ2 点灯時間

この機能は、ユーザーにランプ2の合計点灯時間を通知する表示目的に限定されます。

調整

背面位置

デフォルト設定はオフです。

背面位置にプロジェクターをセットアップしたとき、オンに設定してください。位置のさまざまなモードの詳細については、第IV章「プロジェクターの取り付け」を参照してください。

シーリングモード

デフォルト設定はオフです。

シーリングモードにプロジェクターをセットアップしたとき（天井から逆さまに吊り下げ）、オンに設定してください。位置のさまざまなモードの詳細については、第IV章「プロジェクターの取り付け」を参照してください。

Lens Control

- ズーム
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、第三章 → プロジェクターを取り付ける → フォーカスを調整する を参照してください。
- フォーカス
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、第三章 → プロジェクターを取り付ける → フォーカスを調整する を参照してください。
- シフト
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、第三章 → プロジェクターを取り付ける → レンズの水平および垂直シフトを調整する を参照してください。

キーストーン

この機能を使って、投射角度に起因するキーストーンを補正します。

- 水平キーストーン
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、第三章 → プロジェクターを取り付ける → 投射角度に起因する水平キーストーンを補正するを参照してください。
- 垂直キーストーン
  この機能は、前項で説明した機能と同じです。詳細については、第三章 → プロジェクターを取り付ける →投射角度に起因する垂直キーストーンを補正するを参照してください。

  * 水平キーストーンと垂直キーストーンの絶対値の合計は、350以下に制限されています。*

ダイナミックコントラスト

この機能を使って、起動時または停止時のソースからの画像コントラストを自動的に調整するようにプロジェクターを設定します。有効になっているとき、プロジェクターは投射の初めからコンテンツが終了するまで、画像コントラストをダイナミックに調整します。

ガンマ

ガンマ設定が異なると、画像の見え方に影響します。通常、暗い画像の場合、明るいエリアの細部を犠牲にしても、暗い領域の画像品質を高めるために、ガンマを高く設定するようにお勧めします。それに対して、明るい画像を投射する場合は、明るいエリアがより良く見えるように（雲、など）暗いエリアの細部を放棄してガンマを低く設定できます。

プロジェクターでは、5つの異なるガンマ設定(1.8、2.0、2.2、2.35、2.5)から選択することができます。プロジェクターのデフォルトのガンマ値は2.2です。

あらゆる設定には、すべての原色（赤、緑、青）と二次色（黄、シアン、マゼンタ）を数百万ピクセルで表示するための、正確に定義された位相があります 設定数を変更すると、結果として得られる色が変わり、色の「三角形」を配列し直します。

内部テストパターン

プロジェクターには、テスターで機器を較正するための標準パターンがいくつか組み込まれています。以下の通りです。

0 = オフ	1 = カラーバー	2 = ハッチ	3 = バースト	4 = 赤
5 = 緑	6 = 青	7 = 白	8 = 黒	9 = TI-赤
10 = TI-赤	11 = TI-青	12 = TI-ランプ		

カラースペース

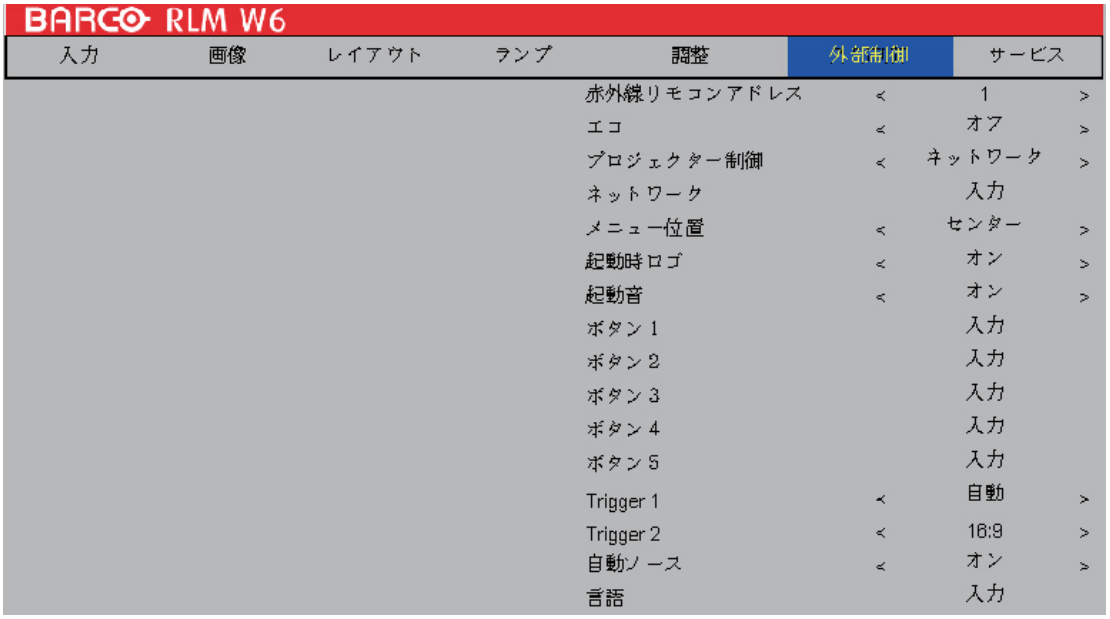
異なるカラースペースを使うと、投射された画像に異なる色彩が表示されます。次のカラーガンマから選択できます。

- **Native**
  これを選択して、プロジェクターのネーティブな色域を適用します
- **EBU**
  これを選択して、EBU色域を適用します。主に、PAL、SECAM、576i、576pなどを使用する入力デバイスに適しています。
- SMPTE
  これを選択して、SMPTE色域を適用します。主に、NTSC, 480i, 480pなどを使用する入力デバイスに適しています。
- カスタム
  これを選択し、プロジェクターのツールセットアプリケーションを通してお好みに従って色域をカスタマイズします。

Lens To Midposition

一連のレンズシフト操作の後、この機能を使用してレンズを中央の位置に戻すことができます。

コントロール



赤外線リモコンアドレス

この機能を使って、リモコンからプロジェクターのIRコード受信を設定します。デフォルト値は1です。自宅にプロジェクターのリモコンからコマンドを受け取る機器が他にある場合、リモコンコードを2に設定するようにお勧めします。

シリアル接続経由で2台のプロジェクターを実行しているとき、1台のプロジェクターのコードを「1」として、もう1台のプロジェクターのコードを「2」として設定できます。こうすることにより、2台のプロジェクターを同じリモコンでコントロールできます。

コード1のプロジェクターからコード2のプロジェクターにリモコンを切り替えるには、リモコンの[入力]と[アドレス]ボタンを同時に（約5秒間）押し下げます。リモコンのバックライトモジュールが点滅して切替を確認します。

エコ

プロジェクターは、そのRS-232ポートと10/100 BASE-Tポート経由でネットワークに接続して2つの個々のボードでリモート操作を実行し、RS-232と10/100BASE-Tポートから信号ソースをコントロールできます。

ネットワーク上でプロジェクターのリモート操作を行う必要がない場合、この機能をオンに設定してエコを有効にするようにお勧めします。これにより、10/100 BASE-Tボードのコントロールに使用される電源がオフになります。ただし、機能が有効になっている間はネットワーク上でプロジェクターをリモート操作することはできません。

オフに設定することで、機能は無効になります。電力を節約することはできませんが、ネットワーク上でプロジェクターをリモート操作できます。

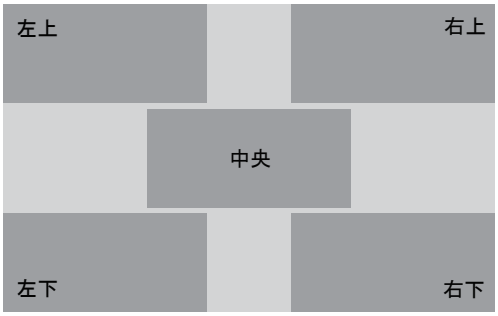
ネットワーク

ネットワーク経由でプロジェクターをコントロールするには、PCとプロジェクターに対してネットワークケーブルを接続した後、このOSD機能を使ってプロジェクターの関連するネットワーク情報（IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DHCP、など）を表示することができます。プロジェクターと同じサブネットマスク、ゲートウェイを持つ適切なIPアドレスでプロジェクターに接続されるPCを設定してください。プロジェクターのデフォルトのIPアドレスは192.168.0.100です。プロジェクターのネットワーク設定は、Webページコントロールまたはプロジェクターのツールセットアプリケーションを通してのみ変更できます。

メニュー位置

この機能を使って、OSDメニューが表示される画像のエリアを指定できます。

以下の図から分かるように、OSDメニューの表示はに5つの位置から選択できます。デフォルト設定は「センター」です。



起動時ロゴ

この機能を使って、起動画面にBarcoロゴを表示させることができます。Barcoロゴを表示するにはオンを設定し、ブランクの画像を表示するにはオフを設定します。

起動音

これをオンに設定すると起動中にサウンド効果が再生されます。オフに設定すると、起動を示すためのサウンド効果を一切再生しません。

ボタン1～5

この機能を使って、それぞれ対応するボタンの画像ソースを指定します。

例えば、HDMI1としてボタン1を、RGB-Sとしてボタン2を割り当てた場合、

リモコンで 1 を押すと、画像はHDMI1から表示されます。

リモコンで 1 を押すと、RGB-Sから画像に切り替わります。

プロジェクターで8つの異なる入力ソース、すなわち、 HDMI1、HDMI2、RGB D-15(RGB-HV/SOG)、YUV1(RGB-S)、YUV2(RGBHV/YUV2)、Composite Video(ビデオ)、S-Video、RGB-Sを選択できます。

Trigger1～2

プロジェクターには、2セットのTrigger出力が搭載されています。プロジェクターがオンになっているとき自動的にオンになるように、トリガーポート経由でプロジェクターに接続された2つの異なるデバイスを構成できます。ユーザーが希望するアスペクト比を選択しているときこの機能が作動しないように、起動まで2～3秒の遅延が設定されています。

5:4	5:4アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。
4:3	4:3アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。
16:10	16:10アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。
16:9	16:9アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。
1.88	1.88アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。
2.35	2.35アスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。
Letterbox	Letterboxアスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。
Native	nativeアスペクト比を選択するとき、Trigger1または2に12Vの電力を出力します。
自動	プロジェクターがオンになっているときTrigger 1または2に12Vの電力を出力します。

自動ソース

オフ: デフォルト設定。この機能を有効にすることによって、OSDメニューで選択しなくても済むように、プロジェクターがオンになる度に入力ソースが自動的に決定されます。

この機能をオフに設定するには、OSDメニューで画像入力のソースを指定し、プロジェクターで目的の画像を表示する必要があります。

言語

この機能を使ってOSDメニューに表示される言語を選択できます。

英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ポルトガル語、簡体字中国語、繁体字中国語、日本語、朝鮮語。

サービス

サービス

この項目に含まれる機能は、プロジェクターについての基本情報の表示に関係します。

カスタムタイミングファイルのメモリは、ファクトリーリセット操作で消去されます。

- モデル: プロジェクターの指定されたモデル番号。
- シリアル番号: プロジェクターの指定されたシリアル番号。
- ソフトウェアバージョン: プロジェクターにインストールされたソフトウェアのバージョン。
- 入力/PIPソース 現在のPIPソースを表示します。
- ピクセルクロック: 現在の入力信号のピクセルクロックを表示します。
- 信号形式: 現在の入力信号の形式を表示します。
- 水平/垂直の更新率: 現在の画像の水平および垂直の更新率を表示します。
- ランプ1 点灯時間: Lamp1の現在の点灯時間を表示します。
- ランプ2 点灯時間: Lamp2の現在の点灯時間を表示します。

  通知: ランプの点灯時間が1500～2000時間に達した場合、または投射された画像が著しくぼんやりしている場合は、ランプを交換してください。
- プロジェクター使用時間: プロジェクターの合計の運転時間を表示します。

ランプ使用時間リセット

この機能を使って、ランプ1とランプ2の時間をゼロにリセットします。

ランプを交換した後、OSDメニューに表示されるランプ使用時間の正確を期するために、ランプ使用時間をリセットするのを忘れないでください。

青のみ

このオプションを有効にすると、青色のみが表示され、サービススタッフによる画像点検プロセスが容易になります。この機能の使用法に関する詳細な指示については、専門の修理技術者にお問い合せください。

ファクトリーリセット

この機能を使って、OSDメニューの設定を工場出荷時のデフォルトに復元します。**この機能は信号、ネットワーク、プロジェクター制御, 起動ロゴ、言語、高高度モード,ランプ使用時間などのアイテムには適用されません。**

ファクトリーリセットを実行するとき、プロジェクターで作成されるソースメモリ（タイミングファイル、など）はすべて消去されます。

ランプ交換

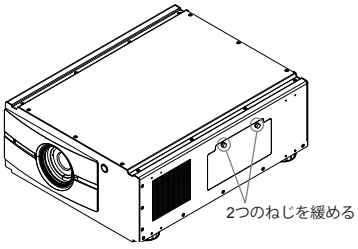
通常の投射ランプの寿命は、一般に1500～2000時間で、その時間経過後交換する必要があります（ランプ構成が異なるとランプ寿命にも影響があります）。OSDメニューから、ランプ → ランプ1または2 点灯時間に移動してランプのそれまでの使用時間をチェックすることができます。投射された画像が著しく暗くなったら、ランプを交換する必要があります。プロジェクター用の認定されたランプを新規に購入する場合、最寄りの販売店にお問い合せください。

プロジェクターランプを交換するには、次の手順に従います

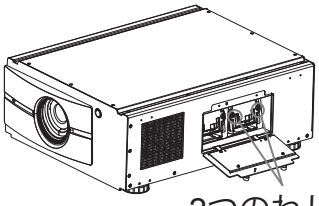
1. プロジェクターの電源をオフにし、電源コードを抜きます。プロジェクターを約60分冷却してから、交換用のランプモジュールを取り外します。

   プロジェクターの電源をオフにしても、プロジェクター内部のランプはまだかなり熱くなっています（約200～300℃). プロジェクターが冷えきらないうちにランプを交換すると、やけどする危険があります。ランプが冷えるまで60分以上待つ必要があるのは、交換を安全に行うためです。

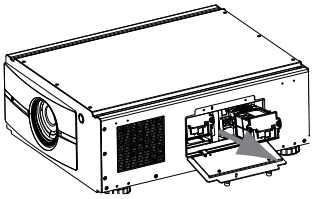
2. ランプカバーを緩めます。



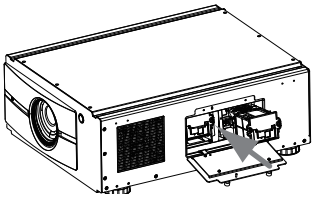
3. ドライバーを使って、図に示すようにねじを緩めます。



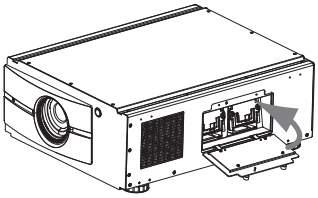
4. ランプカバーの金属ロッドをつかみ、ランプを引き出します。

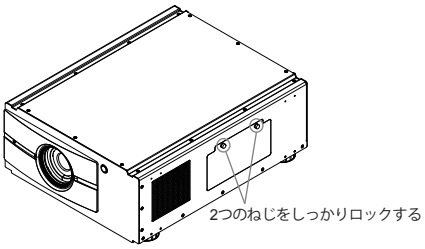


5. 図に示す方向に新しいランプをランプアセンブリまで挿入し、ドライバーを使って2つのねじを締め付け、ランプがしっかり固定されていて、振動したり接触不良がないことを確認します。



6. ランプカバーを元に戻し、ランプカバーの2つのねじでしっかり締め付けます。





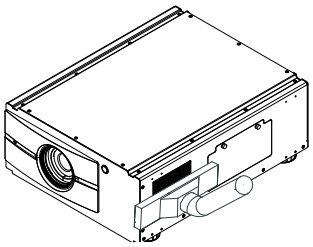
7. 電源をプロジェクターに改めて接続し、ランプの使用時間をリセットします。OSDメニューの説明 → サービス → ランプ1、2 点灯時間を参照してください。

フィルターを清掃する

プロジェクターの内部をきれいに保つために、プロジェクターには埃やその他の小さな異物の侵入を防ぐためのフィルターが装備されています。プロジェクターを約500時間稼動するたびに、プロジェクターのフィルターを清掃するようにお勧めします。埃っぽい環境でプロジェクターを操作している場合、より頻繁にフィルターを清掃するようにお勧めします。

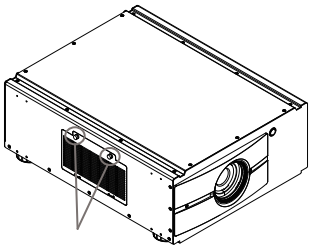
フィルターに詰まった埃は、プロジェクターが冷気を吸入して内部の温度を下げる妨げとなります。これにより、プロジェクターが過熱して誤動作を引き起こしたり損傷する原因となります。

掃除機を使って換気スロットを清掃してください。



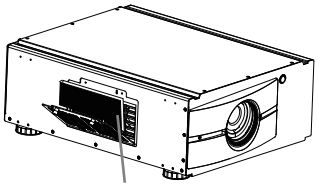
換気スロットのフィルターを清掃するには、次の図を参照してください。

1. 換気スロットのカバーの2つのねじを緩めます。



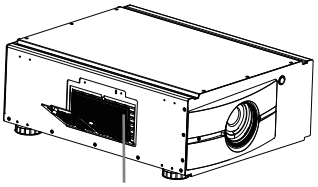
2つのねじを緩める

2. 汚れたフィルターを取り除きます。フィルターは水で直接洗浄することができます。よく乾かしてから、再び取り付けます。フィルターが壊れた場合、新しいフィルターを購入して交換してください。



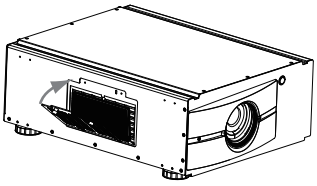
フィルターを取り外し清掃する

3. きれいなフィルターを挿入します。

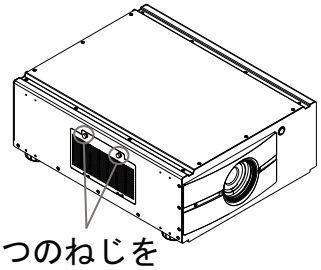


カバー内部にきれいな
フィルターを入れる

4. フィルターカバーを取り付け、2つのねじで締め付けます。



フィルターカバーを閉じたら



2つのねじを
締め付ける

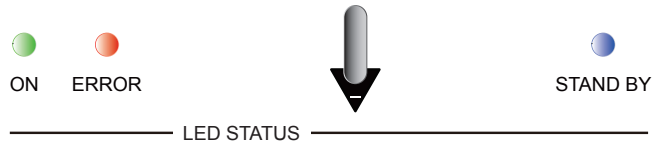
8 LEDインジケータの簡単なトラブルシューティングと定義

次の表は、プロジェクターのよくある問題と解決方法を示したリストです。推奨される解決方法でも問題を解決できない場合、最寄りの販売店に連絡して修理を依頼してください。自分自身でプロジェクターを修理しないでください。

問題	考えられる原因	解決方法
プロジェクターの電源をオンにできない	1. プロジェクターのプラグが差し込まれていない可能性があります 2. プロジェクター背面のAC電源スイッチをチェックして、オンになっているか確認してください。 3. ACソケットが故障している可能性があります 4. レンズカバーが元の位置に正しく戻っていません	1. プロジェクターの電源コードを壁コンセントに差し込んでください 2. 電源スイッチを「I」位置にしてください。. 3. ACソケットが正しく作動していることを確認してください。 4. レンズカバーが元の位置に正しく戻っていることを確認してください。
プロジェクターの電源をオフにした後、オンにできない	1. 電源をオフにした直後、2分間はプロジェクターの電源をオンにできません。 この機能は、ランプを保護するためのものです。	1. プロジェクターが完全に冷却するまで待ってから起動してみてください （プロジェクターのスタンバイインジケータが青に変わります）
リモコンが正常に作動しない	1. 電池の残量がないことが考えられます 2. 電池を間違った方向に挿入していることが考えられます 3. リモコンとプロジェクターのIRセンサーの距離が離れすぎているか、信号受信の最大角度を超えて操作している可能性があります。プロジェクターとリモコンの間に障害物があるか、IR受信機の傍に強い光源のある可能性があります。 4. Ø 3.5mm A有線リモコンをプロジェクターの3.5mmポートに接続していることが考えられます。 5. リモコンのアドレスがプロジェクターのアドレスと一致していません。	1. 新しい電池に取り替えてください 2. 電池が正しい方向に差し込まれていることを確認してください。 3. プロジェクターとリモコンの距離/角度を調整して再実行してください。プロジェクターとリモコンの間に障害物があったり、IRセンサーの傍に強い光源がある場合、これらの状況を解決して再実行してください。 4. 有線リモートケーブルを取り外すか、有線リモコンを使ってプロジェクターを操作してください。 5. リモコンの[入力]ボタンを押してから[アドレス]ボタンを押し続け（約5秒間）、リモコンのコントロールパネルが一度点滅したら手を離し再実行してください。
プロジェクターの電源をオンにしてOSDメニューにアクセスすることはできるが、ピクチャが表示されない。	1. プロジェクターの電源が正しくオンになっていないか、正しい入力ソースを選択していない可能性があります。 2. ソースデバイスに正しく接続していないか、ソースがプロジェクターにまったく接続されていないことが考えられます。	1. プロジェクターの電源が正しくオンになっていることを確認したら、正しい入力ソースを選択してください。 2. プロジェクターと入力デバイスの接続をチェックしてください。
入力ソースとしてDVDプレーヤーにプロジェクターを接続したが、画像が乱れていたり半分に切れている。	DVDプレーヤーがコンポーネントケーブル（RGB-SまたはRGBHV/YUV2）を通してプロジェクターに接続されており、それを順次走査に設定しています。	DVDプレーヤーで順次走査機能を無効にしてください。
ピクチャが薄暗く見える	1. 画像の輝度、コントラスト、カラー、色調を正しく調整する必要があります。 2. ランプの交換時期に来ています。	1. 画像の輝度、コントラスト、カラー、色調を調整してください。 2. プロジェクターのランプを交換してください。
画像が明るすぎる、または明るいエリアがぼやけている	コントラストが高く設定されている可能性があります。	コントラスト設定を下げてください。
画像が退色して見える、または暗いエリアが明るく見えすぎる	画像の輝度が高く設定されている可能性があります。	輝度設定を下げてください。
画像がぼやける	1. レンズの焦点が合っていない可能性があります。 2. プロジェクターの操作環境の温度や湿度が操作中に変わったため（つまり、寒い場所から暖かい場所、または乾燥した場所から湿気の多い場所に移動した）、プロジェクター内部に結露が生じた可能性があります。	1. フォーカスを調整してください。 2. プロジェクターの電源をオンにして、プロジェクターの湿気が蒸発するまで待ちます。
画像の色が青白く見える	入力信号のタイプ(RGB-S/RGBHV/YUV2)が正しく接続されていないことが考えられます	プロジェクターと入力デバイス間の接続が正しいことをチェックしてください。
画像が時々ちらつく	1. ケーブルが正しく接続されていないか、入力デバイスが故障していることが考えられます。 2. 問題が解決しない場合、ランプが故障していることも考えられます。	1. コネクタと入力デバイスが正しく接続されていることを確認し、入力デバイスが正常に運転されていることをチェックしてください。 2. プロジェクターのランプを交換してください。
投射された画像の色が不自然（すなわち、赤が青っぽく表示される）	入力からのG/Y、R/Pr、B/Pbケーブルが入力に間違って接続されていることが考えられます。	入力ソースがプロジェクターに正しく接続されていることを確認してください。
冷却ファンのノイズが突然大きくなる	プロジェクター内部の温度が上がったことが考えられます。	プロジェクター内部の温度が上昇すると、冷却ファンが高速で回転し、内部の熱を急速に放出します。
プロジェクター背面パネルのLEDインジケータが赤く点滅する	ランプまたは冷却ファンが故障している可能性があります。	LEDステータスの定義を参照してください。

1. 投射中、ランプが突然停止し、ピクチャが見えなくなる。 2.プロジェクターの電源がオンになっているのに、ランプが点灯しない。	ランプが損傷していることが考えられます。プロジェクター背面のLEDインジケータをチェックして、赤く点滅していないか調べてください。	ランプが寿命に達しました。交換してください。

LEDステータス



スタンバイ

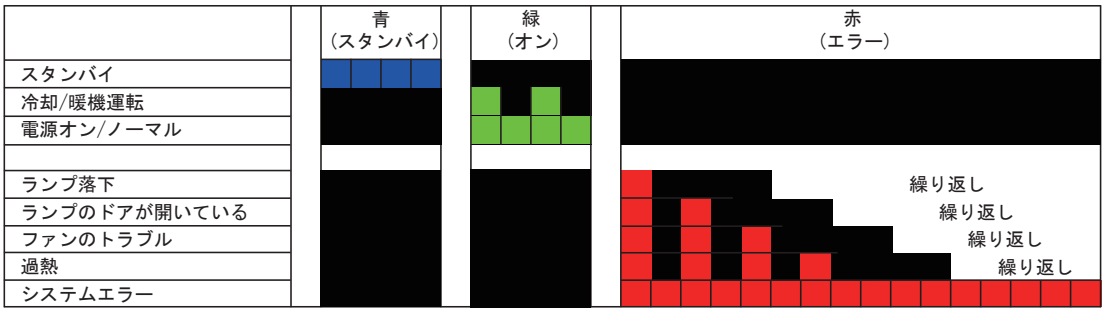
青が点灯	プロジェクターがスタンバイモードに入っていることを示しています。これは、[ソフト電源]ボタンを押したためプロジェクターの電源がオンではありませんが、電源に接続されていることも意味します。
インジケータがオフ	これは、プロジェクターの電源がオンになっていて正常に作動しているか、プロジェクターが電源に接続されていないことを示します。

オン

緑が点灯	これは、プロジェクターの電源がオンになっていて正常に作動していることを示します。
緑が点滅	これは、プロジェクターが現在暖機運転をしているか、冷却中であり、ボタン操作に応答しないことを示します。
インジケータがオフ	これは、プロジェクターが現在スタンバイモードに入っていることを示します。

エラー

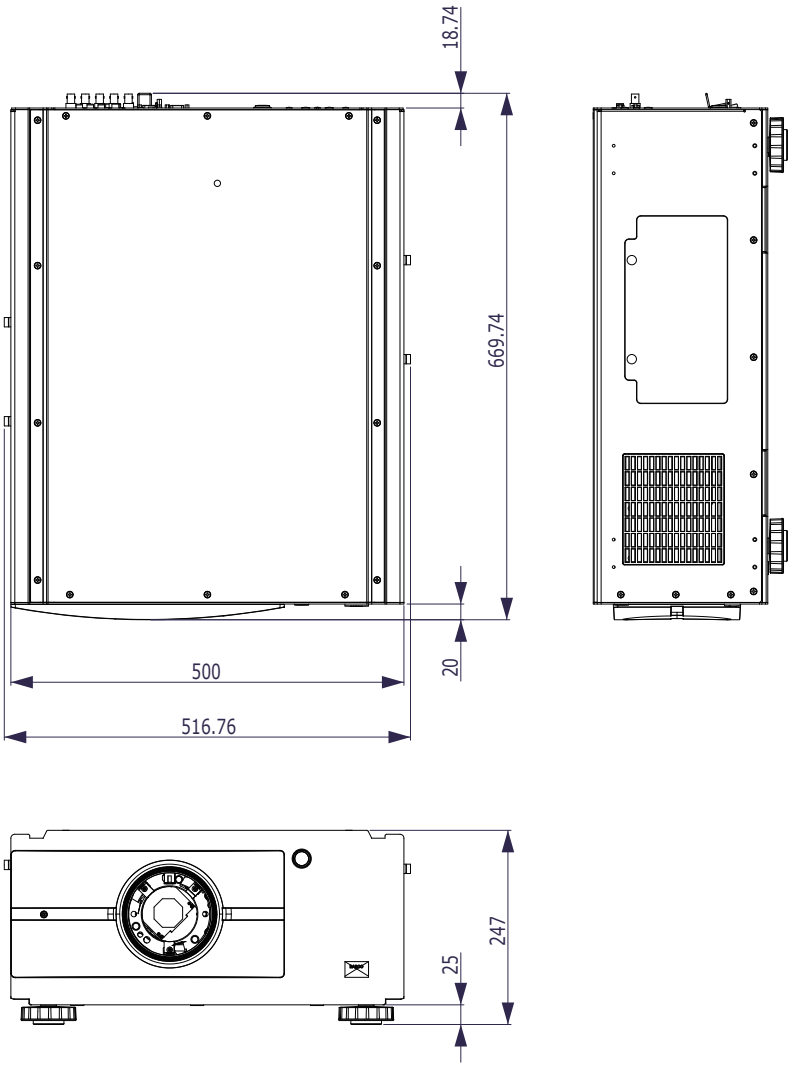
赤が一度点滅する	プロジェクターのランプが故障しています。ランプが損傷していないか、正しく取り付けられているかチェックしてください。
赤が2度点滅する	ランプカバーが元の位置に正しく戻っていません。
赤が3度点滅する	プロジェクター内部の冷却ファンが作動していません。専門技術者に連絡してください。
赤が4度点滅する	プロジェクターの温度が高すぎます。換気装置のスロットを清掃するか、電源コードを抜いて問題を解決してください。
赤が5度点滅する	プロジェクターのフィルターが正しく挿入されていないことが考えられます。換気スロットをチェックし、フィルターが正しく元通りに挿入されていることを確認してください。



仕様

説明	仕様
輝度 - 標準	5400 ANSI ルーメン
解像度	1920 × 1200 (Native)
マイクロディスプレイ	3 × DLP 0.67" DMD
コントラスト - 標準	1800 : 1 全画面表示
輝度の均一性 - 標準	85%
ランプ	2 × 280W UHP
投射レンズ - 投射比	ズーム レンズ 1.45~1.74 1.74~2.17 2.17~2.90 2.90~4.34 4.34~6.76 固定レンズ: 0.77 1.16
入力/出力ポート	1 × YUV1 1 × ビデオ 1 × S-Video 2 × HDMI 1 × RGBHV/YUV2 1 × 10/100 BASE-T 1 × RS-232 2 × 12V Trigger 1 × IR ext.
一次電圧範囲	100V - 240V (±10%)
消費電力 (110V)	750W
最大入力解像度	1920 × 1200
運転温度:	0～40° C 注1: DMDの通常運転温度は、10～65℃の範囲です。 注2: DMDは0～10℃下では約10分程度の短い間なら正常に作動し、DMDが損傷することはありません。
通常作動時のノイズレベル	< 40 dB
エコモード時のノイズレベル	< 37 dB
重量	28 kg

信号タイプ	解像度	フレーム率	ビデオ	S-Video	SCART (RGB-S)	Y-Pr-Pb (YUV1)	HD15、BNC - RGBHV	HD15、BNC - YUV	HDMI - RGB	HDMI - YUV	参照
PC	640 × 480	59.94					×		×		VESA DMT、CEA-861D形式1
	640 × 480	74.99					×		×		VESA DMT
	640 × 480	85					×		×		VESA DMT
	800 × 600	60.32					×		×		VESA DMT
	800 × 600	75					×		×		VESA DMT
	800 × 600	85.06					×		×		VESA DMT
	848 × 480	47.95					×		×		VESA CVT
	848 × 480	59.94					×		×		VESA CVT
	1024 × 768	60					×		×		VESA DMT
	1024 × 768	75.03					×		×		VESA DMT
	1024 × 768	85.03					×		×		VESA DMT
	1280 × 720	47.95					×		×		VESA GTF
	1280 × 1024	60.02					×		×		VESA DMT
	1280 × 1024	75.02					×		×		VESA DMT
	1280 × 1024	85.02					×		×		VESA DMT
	1400 × 1050	60					×		×		VESA CVT
	1600 × 1200	60					×		×		VESA DMT
	1920 × 1080	47.95					×		×		VESA CVT
	1680 × 1050	59.94					×		×		VESA CVT
	1920 × 1200	50.00					×		x		PCLK = 158.25MHz
	1920 × 1200 RB	59.94					×		×		VESA CVT、PCLK=153.75MHz
	1920 × 1200 RB	60					×		×		VESA CVT、PCLK=154MHz
アップル Mac	640 × 480	66.59					×		×		VESA DMT
	832 × 624	74.54					×		×		VESA DMT
NTSC	NTSC (M, 4.43)	59.94	×	×							ITU-R BT.1700、SMPTE 170M
PAL	PAL (B、G、H、I)	50	×	×							ITU-R BT.1700
	PAL (N)	50	×	×							ITU-R BT.1700
	PAL (M)	59.94	×	×							ITU-R BT.1700
SECAM	SECAM (M)	50	×	×							ITU-R BT.1700
SDTV	RGBS	50			×						RS-170、SCART、ITU-R BT.656
	1440x480i	60							×	×	CEA-861-D形式 6 & 7
	1440x576i	50							×	×	CEA-861-D形式 21 & 22
	480i	59.94				×					SMPTE 125M
	576i	50				×					ITU-R BT.601
EDTV	480p	59.94				×	×	×	×	×	SMPTE 293M、CEA-861-D形式2 & 3
	576p	50				×	×	×	×	×	ITU-R BT.1358、CEA-861-D形式17 & 18
HDTV	1035i	60				x	×	×	×	×	SMPTE 260M
	1080i	50				×	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 20
	1080i (Aus)	50				×	×	×	×	×	SMPTE 295M
	1080i	59.94				×	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 5
	1080i	60				x	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 5
	720p	50				×	×	×	×	×	SMPTE 296M、CEA-861-D形式 19
	720p	59.94				x	×	×	×	×	SMPTE 296M、CEA-861-D形式 4、
	720p	60				×	×	×	×	×	SMPTE 296M、CEA-861-D形式 4
	1080p	23.98				x	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 32
	1080p	24				×	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 32
	1080p	25				x	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 33
	1080p	29.97				×	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 34
	1080p	30				x	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 34
	1080p	50				×	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 31
	1080p	59.94				x	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 16
	1080p	60				x	×	×	×	×	SMPTE 274M、CEA-861-D形式 16


18.74
669.74
20
500
516.76
247
25